

John ヨハネによる イエス・キリストの福音

永遠の創造主の御子キリストが 人間となる

1 1 まだ、この世界も何も無かった時、すでにキリストは存在しておられた。キリストは創造主と共におられ、また創造主ご自身であられた。2 このように、キリストは創造主ご自身であられながら、唯一の創造主のうちにおられるもう一人の人格であられた。唯一の創造主には三人格があつて、父と子と聖霊である。キリストは子であられる。3 すべてのものは、創造主によって造られた。だから、創造主であられるキリストによって造られないものは一つも無かった。4 創造主であられるキリストには、本当の命があり、この命こそは、人間が歩む道を照らす光にほかならない。5 キリストの命は光として、闇の世界に輝いており、闇の世界は、決してこれに打ち勝つことはできない。

6 創造主はバプテスマのヨハネを遣わされた。7 それは、彼がキリストについて証言するためであり、彼の証言によって、すべての人がキリストこそ本当の光であることを知り、信じて、命を得るためである。8 彼は光そのものではなく、光であるキリストを証言するに過ぎない者である。

9 すべての人を照らすその本当の光であるキリストが、この世界に来ようとしておられた。10 キリストは、元々この世界の主として、この世界を造られたお方であるのに、この世界の人々は、キリストをそのようなお方として認めようとはしなかった。11 キリストは、ご自分の民として選ばれたユダヤ人の地に来られたのに、この選民たちのほとんどは、キリストを受け入れようとせず、十字架に掛けて殺してし

まった。12 しかし、たとえ選民でなくても、このキリストを受け入れる人はだれでも、創造主の子供としての権威を頂くことができる。このキリストを信じる人はだれでも、救っていただくことができる。13 キリストを信じる人は、創造主が生まれ変らせてくださるのであり、それは、決して先祖や親の身分や地位によるのではなく、人間の願望や意志によるのではなく、ただ創造主の御心によるのである。

14 キリストは人間となられて、私たちのいるこの地上に来られた。私たちは、このイエス・キリストがいかに恵み深く、また真理そのものでいっしょるかということを知っている。それは、実に、創造主の独り子の栄光であつて、私たちはその栄光を見たのである。15 バプテスマのヨハネは、このイエス・キリストについて、大声を上げて、人々にこのような証言をした。『もうすぐ活躍される方は、私よりもはるかに偉大な方です。その方こそ、永遠の昔からおられた創造主だからです』と私が語ってきたのは、この方です。16 私たちは皆、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みに恵みを加えられた。17 というのは、モーセを通して与えられた律法によっては、ただ厳しい要求を求められたに過ぎなかったが、イエス・キリストは、私たちに、豊かな赦しの恵みと真理を下されたからである。18 今までに、肉眼で創造主を見た者は一人もいない。しかし、人間となってこの世に来られた独り子の創造主であられるイエス・キリストによって、私たちは創造主を知ることができるのである。

バプテスマのヨハネによる証言

19 ユダヤ教の指導者たちが、祭司や、彼を助けて主の宮で働いているレビ族の人たちを、エルサレムからバプテスマのヨハネの下に遣わして、救い主なのかどうかを尋ねさせた時、ヨハネはこのような証言をした。20 彼は、はっきりと告白して、「私はキリスト（救い主）ではありません」と言った。21 そこで、彼らは質問した。「それでは、どなたなのですか。救い主の道備

えの役割を果す再来のエリヤですか。」彼は「いいえ、そうではありません」と答えた。「それでは、モーセが預言しているあの預言者ですか」と言うと、「いいえ、そうではありません」と、彼は謙遜に答えた。²²そこで、彼らは言った。「それでは困ります。一体あなたはどなたなのですか。私たちは帰って、私たちを遣わした人たちに返事をしなければなりません。あなたをどなたと報告したらよいのでしょうか。」²³彼はただこのように言うだけであった。「私は、預言者イザヤが、『主の道を真直にせよ』と書いている、荒野で叫ぶ声に過ぎません。」²⁴彼らは、パリサイ派の人たちで、パリサイ派の指導者たちから遣わされて来ている。²⁵彼らは、また、尋ねて言った。「キリストでも、エリヤでも、モーセの預言したあの預言者でもないのなら、どうしてあなたはバプテスマを授けておられるのですか。」²⁶ヨハネは答えて言った。「私が授けているのは、悔い改めた人が、その悔い改めたことを表す水のバプテスマに過ぎません。しかし、ここにいる沢山の人の中には、一人だけ全く別の人がいます。あなたがたは、その方について、本当は何も知りません。²⁷この方は、もうすぐ活躍されますが、私はその方の靴のお世話をする奴隷ほどの値打ちも無い者です。それほど偉大なお方が来られます。」²⁸これは、ヨハネがバプテスマを授けていたヨルダン川の西側にあるベタニヤであったことである。

創造主が犠牲の子羊として 与えてくださった方

²⁹その翌日、バプテスマのヨハネは、イエスが自分の方に来られるのを見て、こう言った。「ご覧なさい。この方こそ、世の人々の罪を取り除くために、創造主が犠牲の子羊として与えてくださった方にほかなりません。³⁰『もうすぐ活躍される方は、私よりはるかに偉大な方です。その方こそ永遠の昔からおられる創造主だからです』と私が言ったのは、この方のことです。³¹私も最初、この方がそのような方であることは、知りませんでした。しかし、私はこの

方がどのような方であるかということ創造主から示されましたので、その準備として、悔い改めを宣べ伝え、それを表明する人々に、水でバプテスマを授けています。」³²ヨハネはまた、次のようにも証言した。「私は、聖霊が鳩のように天から降って、この方の上に留まるのを見ました。³³私も最初、この方がそのような方であることを知りませんでした。しかし、水でバプテスマを授けるようにと、私を遣わされた天のお父様が、私にこう言われたのです。『聖霊が降って、その上に留まる人を見たら、その人こそ、聖霊のバプテスマを授けられる救い主である。』³⁴私はそれを見ました。それで、この方こそ創造主の子であると証言しているのです。」

最初の弟子たち

³⁵その翌日、バプテスマのヨハネはまた二人の弟子たちと共に立っていたが、³⁶イエスが歩いておられるのを見ると、「ご覧なさい。この方こそ、創造主が私たちのために犠牲の子羊として与えてくださった方です」と言った。³⁷その二人の弟子たちは、ヨハネがそう言うのを聞いて、ヨハネから離れ、イエスの弟子として付いて行った。³⁸イエスは振り返って、彼らが弟子として付いて来るのをご覧になると、こう言われた。「何を求めているのかね。」彼らは答えた。「先生。今どこにお泊りですか。」³⁹イエスは彼らに、「来てみなさい。そうしたら分ります」と言われた。そこで、彼らは付いて行って、イエスの泊っておられる所を知った。それは朝の十時ごろであったが、その日一日、彼らはイエスの所にいて、心ゆくまで話し合った。⁴⁰ヨハネから聞いて、イエスに付いて行き、その弟子となった二人のうちの一人は、シモン・ペテロの弟アンデレであった。⁴¹彼は、イエスの弟子になると、すぐ自分の兄シモンの所へ行き、「兄さん。私たちは救い主(キリスト)にお会いしましたよ」と言った。⁴²彼は、そう言って、シモンをイエスのもとに連れて来た。イエスはシモンをご覧になるなり、こう言われた。「あな

たはヨハネの子シモンですね。わたしはこれからあなたをケパ（ペテロ）と呼ぼう。それは堅い石という意味です。」

⁴³ そのまた翌日、イエスはガリラヤに行くこととして、ピリポに会われ、こう言われた。「わたしの弟子になりなさい。」⁴⁴ ピリポは、ペテロやアンデレと同じベツサイダの町の出であった。⁴⁵ 彼はナタナエルに会って、こう言った。「私たちは旧約聖書の中に何度も預言されている救い主にお会いしましたよ。それは、ナザレの人で、ヨセフの子イエスですがね。」⁴⁶ ナタナエルは言った。「ナザレからそんな人が出るはずはないでしょう。」そこで、ピリポは、「では、来て見てください」と言った。⁴⁷ イエスは、ナタナエルがご自分の方に来るのをご覧になると、こう言われた。「この人こそ、イスラエルの名前にふさわしい人だ。彼は偽りを憎む、本当のイスラエル人です。」⁴⁸ ナタナエルはこのイエスの言葉に度胆を抜かれて、「どうして私をご存じなのですか」と聞いた。イエスは、「ピリポがあなたを呼んで来る前に、わたしはあなたがいちじくの木の下の下にいたのを知っています。あなたは、あそこで祈っていましたね」と言われた。⁴⁹ このイエスの言葉を聞いたナタナエルは、一切の偏見を取り除かれ、「先生、あなたは創造主の子です。イスラエルの王キリスト様です」と告白した。⁵⁰ イエスはそれに答えて、こう言われた。「あなたは、いちじくの木の下の下にいたのを知っていたとわたしが言ったので、信じました。しかし、あなたはもっと驚くべきことを見るようになりますよ。」⁵¹ そして、さらにこう続けられた。「よく覚えておきますが、確かに、わたしは天のお父様とあなたがたとの懸橋となります。そのことがあなたがたにも分るようになるでしょう。」

カナの婚宴とカペナウム滞在

2 ¹ それから三日目に、ガリラヤのカナで婚宴があって、イエスの母もそこにいた。² イエスも弟子たちも、この婚宴に招かれた。³ とところが婚宴の途中で、ぶどう酒が無

くなってしまい、母はイエスに、「ぶどう酒がもう無くなってしまいました」と言った。⁴ すると、イエスは母にこう言われた。「お母さん。今は、救い主として天のお父様の御心に従って行動しなければなりませんから、天のお父様の御心でなければ、わたしは何もできません。それに、今はまだそのことについて、天のお父様の御心が示されていないのです。でも、どうぞご心配にならないでください。」⁵ 母はいつものようにイエスを信頼しきっており、手伝いの人たちにこう言って行かれた。「あの人が言う通りに、何でもしてくださいね。」⁶ そこには、ユダヤ人が食事の前後に手を洗う清めのおきてを守るために、百リットルぐらい入る石の水がめが六個置いてあった。⁷ 天のお父様の御心により、イエスは行動を開始され、手伝いの人たちに言われた。「水がめに水を一杯入れなさい。」彼らは言われるまま、その通りにした。⁸ イエスはまた言われた。「さあ、今汲んで、婚宴の世話人の所へ持って行きなさい。」彼らはその通りにした。⁹ 婚宴の世話人は、ぶどう酒になったその水を味わって驚いた。それは、すばらしいぶどう酒だったからである。彼は、それがどこから運ばれて来たのか知らなかったので、——しかし、水を汲んだ手伝いの人たちはよく知っていた——花婿を呼んで、¹⁰ こう言った。「どんな人でも、初めのうちは上等なぶどう酒を出しておきながら、みんなの酔が回るころになると、質の悪いものを出すものですが、あなたはこんな上等なぶどう酒を今まで取っておいたのですか。」¹¹ イエスは最初の奇蹟を、ガリラヤのカナで行ない、救い主としての栄光を現された。それで、弟子たちは、イエスを救い主として信じた。

¹² その後、イエスは母や弟たちと一緒に、カペナウムに下って行き、何日間かそこに滞在しておられた。

主の宮の聖別

¹³ さて、ユダヤ人の過越の祭が近付いたので、イエスはエルサレムに上られた。¹⁴ そして、主

の宮の庭に、牛、羊、鳩を売る者たちや、ローマの貨幣をユダヤの貨幣に替える人々のための両替屋が座っているのをご覧になり、¹⁵ 縄でむちを作って、羊も牛も皆、主の宮の庭から追い出し、両替屋の台をひっくり返して、その金を散らし、¹⁶ また、鳩を売る者たちに言われた。「それを持ってここから出て行け。天のお父様の家を商売の家としてはいけない。」¹⁷ その時、弟子たちは、旧約聖書の詩篇の中にある、「あなたの家を思う熱心が、わたしを食い尽くすようになる」という預言を思い出した。¹⁸ そこで、ユダヤ人たちはイエスに言った。「あなたは、ずいぶんひどいことをするんですね。ところで、これだけのことをなさるからには、創造主の権威を示す奇蹟がお出来になるでしょうな。」¹⁹ イエスは彼らに答えて言われた。「よろしい。この主の宮を壊してご覧なさい。わたしは三日で建ててみせましょう。」²⁰ そこで、ユダヤ人たちは驚いた。「へーえ、三日で建てると言うんですか。この主の宮を建てるのには、四十六年も掛かったんですよ。」²¹ しかし、イエスはエルサレムの主の宮のことではなく、ご自分の体を主の宮と言われたことに、彼らは気付かなかったのである。²² 弟子たちは、イエスが死人の中から復活された時、この日イエスが言われたことを思い出し、旧約聖書の詩篇の御言葉とイエスが言われた言葉を信じた。

イエスは人の心を知っておられた

²³ 逾越の祭の間、イエスがエルサレムにおられた時、多くの人は、イエスの行なわれた奇蹟を見て、イエスを信じた。²⁴ しかし、イエスは彼らの信仰が上辺のものに過ぎないことを知っておられたので、彼らを信用されなかった。²⁵ また、イエスは人の心がどのようなものであるかということをよく知っておられたので、人によって証言してもらおうとは思われなかったし、このようなチャンスを利用しようとも思われなかった。

ニコデモとの対話

3 ¹ユダヤ人議会の議員の一人で、パリサイ派に属するニコデモという人がいた。²この人はユダヤ人の指導者の立場にあったので、名もないイエスの所に、人の見ている屋間行くことができず、夜こっそりと訪れた。そしてこのように言った。「先生。私はユダヤ人の指導者の立場にある者ですが、どうしたら救われて、創造主の国に入ることができるのか知りたいのです。私たちは、先生が沢山の奇蹟をなさっておられますので、創造主から遣わされて来た方であることをよく存じております。」³それを聞いて、イエスはこう言われた。「よく言うておきますが、確かに、どんな人でも生れ変りを経験しなければ、創造主の国に入れていただくことはできません。」⁴ニコデモはそれに対してこう言った。「先生。私は年を取りました。どうして、もう一度母の胎に入り直して、出て来ることができましょうか。」彼には、霊の生れ変りと肉体の誕生とが区別できなかった。⁵そこで、イエスはさらに説明して、こう言われた。「よく言うておきますが、確かに、どんな人でも肉体の誕生だけでなく、聖霊による霊の生れ変りを経験しなければ、創造主の国に入ることはできません。⁶肉体の誕生しかしていない人は、生れながらの人に過ぎません。聖霊による霊の生れ変りを経験した人だけが、生れ変わった人です。⁷霊の生れ変りについてわたしが言ったことを、不思議に思わないでください。⁸ヘブル語では、聖霊と同じ言葉である風のことを考えてご覧なさい。風は、それが吹いていても、目で見ることができませんし、その結果である音を聞くことはできても、それが風そのものであるとは限りません。しかし、目で見ることができなくても、風が吹いていることは確かでしょう。聖霊による霊の生れ変りも、ちょうどそれと同じです。」⁹ニコデモは、まだげん顔をして、こう言った。「どうして、そんなことがありうるのでしょうか。」¹⁰イエスはニコデモに言われた。「あなたはイスラエ

ル人を教える先生なのに、人間の内的生活を
 変える創造主の力を知らないのですか。¹¹ よ
 く言っておきますが、確かに、わたしが今話し
 ていることは、今現にここで経験できる実際の
 ことを話しているのですよ。¹² この地上のこ
 とが信じられないのなら、わたしが天のこと
 について話したら、到底信じられないでしょうね。
¹³ だれ一人として、天に上ったことのある人は
 いません。しかし、天から降って来た人はいま
 ず。わたしがそれです。¹⁴ 昔イスラエルの民が
 エジプトから出て、荒野を旅していた時、創造
 主に逆らって罪を犯し、創造主は彼らを罰す
 るために、火の蛇を送って、かませたことがあ
 りましたね。あの時、モーセが創造主に訴え
 ると、創造主は青銅の蛇を作って、棒の先に付
 けさせ、これを仰ぎ見る者たちは、蛇にかま
 れた毒から救い出されました。ちょうどそ
 れと同じように、わたしは悪魔という蛇にか
 まれて罪人となった人々を救うために、十字
 架の上に掛けられます。¹⁵ あのモーセの時
 と同じように、十字架の上に掛けられるわ
 たしを仰ぎ見て信じる人はだれでも、救われ
 るのです。」

¹⁶ 創造主はその独り子であられるイエス・キ
 リストをこの世に遣わされ、十字架で私たち
 の罪の身代りとして死なせるほどに、私たち
 を愛してくださいました。それは、イエス・キ
 リストを信じる人がだれであろうと、滅びる
 ことがなく、救われるためです。¹⁷ 創造主
 が御子イエス・キリストをこの世に遣わされ
 たのは、この世を裁くためではなく、御子
 によって世の人々が救われるためであった。
¹⁸ 御子を信じる人は、決して裁かれな
 い。しかし、御子を信じない人は、創造主
 の御子を信じなかったがために、もうすで
 に裁かれています。¹⁹ その裁きというのは、
 こうである。光である創造主の御子キリス
 トが、この世に來られたにもかかわらず、罪
 の結果である自分の行ないが悪いので、そ
 の醜さが、光の下で明らかにされることを
 恐れて、光の下に來ようとはせず、むしろ
 闇を愛したことである。²⁰ 悪いことを
 する者は、いつでも光を避けて、光である
 イエス・キリストの所に來ようとはせ

ず、むしろ光であるイエス・キリストを憎
 んでいる。²¹ しかし、真理に従って生活し
 ようとする人は、光であるイエス・キリス
 トの所に來る。それは、創造主がそのよ
 うにさせてくださっていることが、明ら
 かにされるためである。

バプテスマのヨハネの証言

²² その後、イエスは弟子たちと、ユダヤの地
 に行き、彼らと共に滞在された。後にな
 ると、弟子たちに任されたが、このころ
 イエスは罪を悔い改めたことを表すバプ
 テスマを自ら授けておられた。²³ バプテ
 スマのヨハネも、サリムに近いアイノ
 ンでバプテスマを授けていた。そこ
 には泉が沢山あった。人々は次々にや
 って来て、バプテスマを受けていた。
²⁴ このころは、まだバプテスマのヨ
 ハネは投獄されていなかった。²⁵ とこ
 ろが、彼の弟子たちが、一人のユダヤ
 人と、清めについて議論をした。それ
 は、イエスのバプテスマの方が、ヨハ
 ネのバプテスマより勝っているとユダ
 ヤ人が言ったためであった。²⁶ そ
 こで、弟子たちは師のヨハネの所に
 来て、訴えた。「先生。ヨルダン川の
 向う岸で、先生とご一緒にいたこと
 のある方、先生が救い主であると証言
 しておられたあの方が、バプテスマ
 を授けておられます。それで、みな
 向うの方へ行ってしまう。」²⁷ ヨハ
 ネは弟子たちの心を知ってこう言
 った。「創造主がそれぞれに賜物を
 与えてくださっているのだ。だから、
 それでよいではないか。²⁸ その方の
 道備えをするのが私の仕事なのだか
 ら、みんなあの方の方へ行ったらよ
 い。あなたがたは、『私が救い主で
 はなく、救い主の前に道備えをする
 ために遣わされた者だ』と言ったこと
 を覚えているでしょう。あなたがた
 はその証人ではありませんか。²⁹ 主
 役が現れれば、人々が向うへ行くの
 は当たり前でしょう。主役である花
 婿は來たのです。それがあの方です。
 ですから、私たちが喜び躍るのは
 当然です。³⁰ あの方は必ず栄えま
 すが、私は衰えていくのです。³¹ あ
 の方は、天から來られた方です
 から、すべてのものの上におられま
 す。しかし、私は地上の人間に過ぎ
 ませんから、

私の話すことも、その域を出ることはできません。³² あの方は、ご自分が見たこと、聞いたことを語っておられるのですが、地上の人間にとっては、それは余りにも高遠なことで、それを信じようとする者はほとんどありません。³³ しかし、あの方が語っておられることを信じた人たちは、創造主が真理そのものであることを知ったのです。³⁴ 創造主が遣わされた方は、創造主の言葉を語られます。それは、創造主がその聖霊を限りなく豊かにお与えになっておられるからです。³⁵ 天のお父様は、御子イエス・キリストを愛しておられ、すべてのものを御子にお渡しになりました。³⁶ ですから、御子イエス・キリストを信じる人はすべて救われますが、御子イエス・キリストに聞き従おうとしない者は一人も、天国に入ることはできず、創造主の怒りが永遠にその人の上に留まり続けます。」

サマリヤの女との対話

4 ¹ イエスがヨハネよりも多くの弟子を作り、バプテスマを授けておられることを聞いたパリサイ派の人々は、大変恐怖を感じた。そのことを主が知られると、² —実際にバプテスマを授けていたのは主イエスご自身ではなく、弟子たちであったが—³ 主はパリサイ派の人々の反対を予感され、その時がまだ来ていなかったので、ユダヤ地方を去り、またガリラヤ地方へ行かれた。⁴ この度の旅行では、ユダヤ人が普通通らないサマリヤ地方を通るコースを選ばれた。それには一つの目的があった。⁵ 主はサマリヤのスカルという町においでになった。この町は、ヤコブがその子ヨセフに与えた土地の近くにあって、⁶ そこには、ヤコブの井戸と呼ばれた井戸があった。イエスは旅の疲れを覚えて、井戸のそばに座っておられた。時は夕方の六時ごろであった。⁷ すると、一人のサマリヤの女が水を汲みに来た。イエスは、「水を頂けませんか」と言われた。⁸ その時、弟子たちは食物を買いに町へ出掛けて行って、ほかにだれもいなかった。⁹ これを聞いたサマリヤの女は、驚いてイエスに言った。「あ

なたはユダヤ人なのに、どうしてここへおいでになったのですか。それに、サマリヤ人の私に話し掛けられるのですか。そればかりではありません。この女の私にそのようなことをおっしゃるとは、どういうわけですか。」—そのころ、ユダヤ人は、サマリヤ人を汚れた者たちと見なして交際しようとはしなかった。というのは、サマリヤ人はユダヤ人と異邦人の混血であったからである。—¹⁰ イエスは答えて言われた。「もし創造主があなたがたに与えてくださるすばらしい賜物のことや、わたしがだれであるかということを知ったなら、今度はあなたの方からわたしに求めて来るはずです。そうすれば、わたしはあなたに命の水を上げましょう。」¹¹ 彼女は、イエスの言われたことがよく分らなかった。それでこう答えた。「先生。汲む物を何も持っていらっしゃらないで、どうして水が汲めるのですか。この井戸はとても深いんですよ。その命の水とは、どこにあるんですか。¹² 私たちの先祖のヤコブもその子供たちも家畜も、皆この井戸の水を飲んだんです。先生は、あのヤコブよりもお偉い方なんですか。」¹³ そこで、イエスは深い真理を語られた。「だれでも渴きをどめようとして、水を飲みます。しかし、このような水は、一度飲んで、また渴いてしまいます。¹⁴ しかし、わたしが与える水というのは、こんな水ではありません。わたしが与える水は、一度飲んだら、もう決して渴くことのない心の水です。それを心の中に受け入れた人は、その人の心の中でそれが泉となって、永遠の命の水がわき出ます。分りますか。」¹⁵ 女は、それでもまだ分らなかった。「先生。そんなに便利水があるのなら、その水を私にも頂けませんか。そうすれば、もう二度と、嫌な思いをして、ここまで水を汲みに来なくてもよくなりますから。」¹⁶ そこで、イエスは彼女に言われた。「行って、あなたの夫をすぐここへ呼んで来なさい。」¹⁷ 女は、けげんな顔をしながら答えた。「私には、夫なんかおりません。」イエスは彼女を見詰めて言われた。「確かにその通り。あなたが正式に結婚した夫は無いです

ね。¹⁸でも、あなたは男を五人も替えている。今一緒にいる男も、確かに夫ではない。夫がいなかったと言ったのは、その通りだ。」¹⁹女は驚いて、イエスに言った。「先生。あなたは普通のお方じゃありません。モーセが預言しているあの預言者です。²⁰どうか教えてください。あなたがたユダヤ人は、礼拝の場所がエルサレムだと言っています。しかし、私たちサマリヤ人は、このゲリジム山で礼拝をするのだと言っています。どちらが、正しいのでしょうか。」²¹イエスは彼女に言われた。「あなたがたがこの山でも、エルサレムでもない方法で、天のお父様を礼拝する時が来ます。²²確かに、ユダヤ人の礼拝はサマリヤ人の礼拝に勝っていました。しかし、それは本当の救い主が来られる時までの礼拝の仕方です。²³今は特定の場所で動物の犠牲によってなされる礼拝ではなく、そのような旧約の礼拝が指し示していた、本当の礼拝が行なわれるのです。それは聖霊と御言葉によって天の救い主を礼拝する霊的な礼拝です。天のお父様が求めておられるのは、このように礼拝する人々です。²⁴というのは、創造主は霊であるからです、その霊である創造主を礼拝する者も、聖霊と真理である御言葉によって礼拝しなければなりません。」²⁵女はイエスに言った。「私はキリストと呼ばれる救い主が来られることを知っています。その方が来られたら、何もかもすべてのことを教えてくださいと思えます。」²⁶イエスは女を見詰めて言われた。「あなたと今話をしているこのわたしが、その救い主です。」

²⁷その時、食物を買いに行っていた弟子たちが帰って来て、主イエスが一人の女と話をしておられるのを不思議に思った。しかし、だれ一人として、「何を話しておられたのですか」とも、「どうしてこの婦人と話しておられるのですか」とも言う者はいなかった。²⁸人をはばかり、ほかの人が水を汲みに来ない時をねらって井戸へ水を汲みに来ていたこの女は、自分の水がめをそこに置くと、町へ走って行き、だれかれの区別なく、人々にこう言った。²⁹「さあ、来て見

てください。私のしたことを、何もかも言い当てた人がいるんです。もしかしたら、この方がキリスト様かもしれません。」³⁰それを聞くと、人々は町を出て、イエスのいる所へやって来た。

³¹女が町の方へ行ってしまうと、弟子たちは自分たちが買って来た食物を、主イエスに薦めた。³²ところが、イエスは彼らに言われた。「わたしには、あなたがたの知らない食物があります。」³³そこで、弟子たちは互いに言った。「だれかが食べる物を持って来たのだろうか。」³⁴イエスは彼らに説明された。「わたしをお遣わしになった天のお父様の御心を行ない、その御業を成し遂げることが、わたしにとっては食物なのです。³⁵あなたがたは、『刈り入れ時が来るまでには、まだ四か月もある』と言ってはいませんか。確かに麦の場合はそうです。けれども、人の心に蒔かれた御言葉の種によって芽が出、刈り入れるまでには、後四か月も待つ必要はありません。それどころか、もう心の畑は色づいて、刈り入れるばかりになっています。³⁶刈り入れる者は、多くの人々を救いに導き入れています。こうして、御言葉の種を蒔く者と魂を刈り入れる者とが、一緒に喜ぶためです。³⁷こういうわけで、旧約聖書に言われている、『ある者は種を蒔き、ある者は刈り取る』ということわざ通りです。³⁸わたしは、あなたがたを遣わして、あなたがた自身が労したわけでもないものを刈り取らせました。以前、多くの創造主の使者たちが御言葉の種を蒔いて行きました。その結果、あなたがたは、回心者を刈り取ることができるのです。」

³⁹さて、その町のサマリヤ人の多くは、あの女が、「あの方は、私のしたことを何もかも言い当てました」と言った言葉によって、イエスを信じた。⁴⁰そこで、サマリヤ人たちは、イエスのもとに来て、自分たちの所に滞在して下さるように頼んだ。そのため、イエスは二日間そこに滞在された。⁴¹そして、なお多くの人々がイエスの言葉を聞いて信じた。⁴²しかし、彼らはその女に言った。「私たちは、もうあなたが話してくれたことを聞いて、間接的に信じて

いるではありません。直接この目で見、この耳で聞いて、この方こそ本当の救い主だと分ったからです。」

ガリラヤでの宣教

⁴³それから二日後に、イエスはこの地を去って、ガリラヤへ行かれた。⁴⁴イエスはよく、「預言者は自分の故郷では、尊敬されないものだ」と言っておられた。⁴⁵確かに、イエスがガリラヤへ行かれると、ガリラヤ地方の人たちはイエスを歓迎した。それは、彼らがエルサレムの過越の祭に行っていたので、イエスが祭の間、エルサレムで行われた奇蹟を見ていたからである。

王室の役人の息子を治す

⁴⁶イエスは、またガリラヤのカナに行かれた。ここは前に水をぶどう酒に変える奇蹟を行なわれた所である。ところが、そのころ、ヘロデ・アンテパスに仕える王室の役人で、息子が病気で悩んでいる人がカペナウムに住んでいた。⁴⁷この人は、イエスがユダヤからガリラヤに来られたことを聞いて、イエスの所へ行き、息子の病気を、来て治してくださいとお願いした。息子は死にそうな病気であったのである。⁴⁸そこで、イエスは彼に言われた。「あなたがたは驚くべき奇蹟をわたしがしなければ信じないでしょう。」⁴⁹すると、その役人はイエスに懇願した。「主イエス様。私どもの子供が死なないうちに、早く来ていただきたいのです。」⁵⁰それを聞くと、イエスは彼に言われた。「家へお帰りなさい。あなたの子供は治っていますよ。」その人は、イエスの言葉を信じて、帰途に着いた。⁵¹彼が家へ帰る途中で、しもべたちがやって来るのに出会い、息子がもう治ったことを知らせた。⁵²そこで、子供が良くなった時刻をしもべたちに尋ねると、「昨日の午後七時ごろ、急に熱が引きました」と答えた。⁵³それは、イエスが彼に、「あなたの子供は治っていますよ」と言われた時刻と全く一致していることを知って、驚いた。そして、彼も彼の家の者も皆、イエスを信じるようになった。⁵⁴イエス

は、ユダヤを去ってガリラヤに来られてから、ここで第二の奇蹟を行なわれた。

ベテスダの池で病人を治す

5¹その後、ユダヤ人の祭があって、イエスはエルサレムに上られた。²エルサレムの市内、羊の門の近くに、ヘブル語でベテスダという名前の池があって、そこには、五つの回廊があった。³そこには、大勢の病人、たとえば、盲人、足の不自由な人、やせ衰えた者たちが、体を横たえていた。この人々は、水が動くのを待っていた。⁴それは、この池が間歇泉であって、時々水が吹き出すのを、人々は主の御使いがこの池に降りて来て、水を動かすものと考え、その時最初にこの池に入った人は、どのような病気で治るものと信じていた。⁵そこに、三十八年もの間、中風で寝たきりの男がいた。⁶彼がその回廊で寝ている所へ来られたイエスは、その男をご覧になって、こう言われた。「本当に治りたいのか。」⁷その病人は答えて言った。「もちろんです。でも、私は、水がかき回された時、自分で池の中に入ることができません。それに、だれも私を池の中に入れてくれる人はいません。いつでもほかの人が先に入ってしまうのです。」⁸イエスは彼に言われた。「さあ、起き上がって、床をたたんで歩き出さない。」⁹すると、その男はその通りにした。彼は治り、床をたたんで歩き出した。ところが、その日は安息日であった。¹⁰そこで、ユダヤ人の指導者たちは、その治してもらった男に言った。「今日は安息日ではないか。床をたたんではいけない。」¹¹彼は答えた。「私を治してくださった方が、『床をたたんで歩き出さない』と言われたのです。」¹²そこで、彼らは尋ねた。「一体『床をたたんで歩き出さない』などと言ったのは、だれなんだ。」¹³しかし、治してもらった人は、その人がだれであるかを知らなかった。人が大勢いたので、イエスはそっとそこから出て行かれたのである。¹⁴それからしばらくして、イエスは主の宮で、その男を見つけて言われた。「さあ、あなたは

治りましたね。あなたはもう以前のような罪深い生活をしないようにしなさい。そうでないと、もっとひどいことになりますよ。」¹⁵ その男は、ユダヤ人の指導者たちの所へ行って、自分を治してくれたのがイエスであることを知らせた。¹⁶ そのため、ユダヤ人の指導者たちは、安息日に人を治したと言ってイエスを責めた。¹⁷ そこで、イエスは彼らに答えられた。「天におられるわたしのお父様は、今に至るまで、ずっと働いておられます。ですから、わたしも働いているのです。」¹⁸ それを聞くと、ユダヤ人の指導者たちは、ますますイエスを殺そうと考えた。彼らの目には、イエスが安息日を破っておられるように見え、創造主を自分の父だと言って、ご自分を創造主と等しくされたからである。このようなイエスの姿をユダヤ人の指導者たちは、イエスがまさしく創造主から離れて行動している証拠であると考えた。

父である創造主から遣わされた 御子の権威

¹⁹ そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「よく覚えておきますが、確かに、天のお父様とわたしとは、父と子の関係です。ですから、わたしが行なう業は、天のお父様を離れては何も出来ません。そればかりか、天のお父様の御心でなければ、何もすることはできません。天のお父様の御心のままにするだけです。²⁰ 天のお父様とわたしとの関係は、比類のないもので、それは深い愛によって結び合われています。ですから、わたしは天のお父様が示してくださった御業をしているに過ぎません。しかし、その業は驚くべきものです。²¹ 天のお父様は死んだ人を生かして、命を与えることがおできになりますが、わたしもまた、御心にかなう人々に自由に命を与えることができます。²² また、裁きの権をもわたしにお与えになりました。²³ それは、すべての人が、天のお父様を敬うように、わたしをも敬うためです。わたしを敬わない人は、わたしをお遣わしになった天のお父様をも敬うわけがありません。²⁴ よく覚えておきます

が、確かに、わたしの言う言葉を聞いて、わたしをお遣わしになった天のお父様を信じる人はだれでも、永遠の祝福を受け、決して裁かれることがなく、信じた時に、霊が死んでいた状態から命が与えられ、生きた状態に入れられます。²⁵ よく覚えておきますが、確かに、罪のために、霊の死んでいる者たちが、創造主の御子の御声を聞く時が来ています。そして、それを聞いて信じる人はだれでも、霊が生きるようになるのです。²⁶ どうしてそのようなことが起るのかと言いますと、本当の命は、天のお父様ご自身だけが持っておられるのですから、天のお父様は、その本当の命をわたしに下さったのです。²⁷ また、天のお父様は裁きを行なう権をも、わたしに下さいました。わたしは天のお父様によって立てられた救い主だからです。²⁸ この世の終りになると、わたしの声を聞いて、人々は復活して来ますが、そんなことがあったからと言って、驚かないでください。わたしはただの人間ではないのですから。²⁹ 天のお父様の御心を受け入れる人々は、世の終りに復活して、永遠の祝福を受けますが、受け入れなかった人々は、世の終りに復活しても、永遠に呪われ続けなければなりません。

³⁰ わたしは天のお父様の子ですから、自分の意志では何もしません。天のお父様の御心のままに裁きを行ないます。その裁きが正しい証拠は、天のお父様の御心のままに行なうところにあります。³¹ わたしが、自分自身について証言するのだとしたら、律法にある通り、それは法的には無効となるでしょう。³² ところが、わたしについて証言する証人は別におられます。その方の証言は確かなものです。³³ あなたがたは、バプテスマのヨハネの所に人を送りましたが、確かに、彼は真理であるわたしについて証言しました。³⁴ とは言っても、わたしは人間の証言を今必要としているわけではありません。わたしがここでバプテスマのヨハネのことを言っているのは、あなたがたが救われることを考えてのことです。³⁵ 彼は光そのものではありませんが、本当に、燃えて輝くともし火でした。あなたが

たはしばらくの間でしたが、ヨハネのともした明るさの中で、創造主がイスラエルを回復してくださる時が来たと思って、喜びました。しかし、それは今は消えてしまいました。³⁶けれども、わたしたちには、バプテスマのヨハネよりもさらにすばらしい証言があります。天のお父様がわたしに成し遂げさせようとしてお与えになった働きがそれです。今わたしが行なっている働きそのものが、わたしのことを、天のお父様がわたしをこの世にお遣わしになったと証言しているではありませんか。³⁷また、わたしをこの世にお遣わしになった天のお父様ご自身が、わたしについて証言していただきます。あなたがたは、まだ一度もその御声を聞いたことがありませんし、また、その御姿を見たこともありませんね。³⁸そればかりか、その御言葉をあなたがたの心に留めてもいませんね。それは、天のお父様が遣わされたわたしを信じないからです。³⁹あなたがたは、旧約聖書の中に救いがあることを知っているのですから、旧約聖書を熱心に研究しなさい。その旧約聖書は、救い主としてのわたしを示しているのです。⁴⁰それなのに、あなたがたは、そのわたしの所に来ようとはしません。⁴¹というのは、あなたがたは創造主よりも人からの栄誉を受けようとはばかりしているからです。⁴²あなたがたの行動の根本的な動機には創造主の愛が無く、互いに人の栄誉を受けることしかありません。⁴³ですから、人間のレベルでしか、ものを考えることができないあなたがたは、わたしが天のお父様の所から来ても、わたしを受け入れることができないのです。ほかの人が人間のレベルで自分自身を誘引して来れば、受け入れるに違いありません。⁴⁴そういうわけで、あなたがたは、人間同士の栄誉を受けることにしか関心が無く、唯一の創造主からの栄誉を求めようとしないのですから、創造主から遣わされて来たわたしを信じることができないのは当り前のことです。⁴⁵わたしがあなたがたを不信仰者として天のお父様に訴えるのだと思っているかもしれませんが、実はそうではありません。あなたがたを不信仰者

として訴えるのは、わたしではなく、あなたがたが頼みにしているモーセです。⁴⁶もし、あなたがたがモーセの律法を信じているのであれば、わたしを信じたはずですよ。というのは、モーセの律法はわたしについて預言しているからです。⁴⁷ですから、あなたがたがモーセの律法に書かれていることを信じないのであれば、どうしてわたしの言葉を信じるでしょうか。あなたがたは、モーセの律法を守っていると言いつつ、モーセが預言している律法の成就者であるわたしを、どうして信じないのですか。」

五千人の人々に食べ物を与える

6¹その後、イエスはガリラヤ湖とか、テベリヤ湖と呼ばれた湖の向う岸へ行かれた。²大勢の群衆がイエスに付いて行った。それは、イエスが病人たちを治された奇蹟を見たからである。³イエスは山に登って、弟子たちと一緒にそこに座られた。⁴時は初春で、ユダヤ人の過越の祭が近付いていた。⁵イエスは目を上げて、大勢の群衆が、ご自分の方に集まって来るのをご覧になって、ピリポに言われた。「ここに来ている人たちに食べさせるためには、どこからパンを買って来たらよいだろう。」⁶イエスは、ご自分がしようとしておられることをすでに承知しておられたが、これは、ピリポに試験問題として出されたのである。⁷ピリポはイエスに答えた。「こんなに沢山の人がいるのですから、この人たちに食べさせるパンを買おうとしたら、いくらお金があっても足りません。」⁸その時、十二使徒の一人で、シモン・ペテロの弟アンデレが、一人の子供を連れて来て、こう言った。⁹「先生。この子供は、大麦のパン五つと小さい魚二匹の入った一人分の弁当を持っています。でも、こんなに大勢の人がいたのでは、どうにもしょうがないでしょうね。」¹⁰イエスは使徒たちに命じて言われた。「人々を座らせなさい。」その辺りには、草が沢山生えていたので、男たちは腰を下ろした。男の数だけで五千人いた。¹¹そこで、イエスはパンをお取りになると、感謝をささげてから、腰

を下ろしている人々に分けてお与えになった。また、小さい魚も同じようにして、彼らの欲しいだけ分けてお与えになった。¹² 人々が十分食べると、使徒たちにこう言われた。「余ったパンくずを、一つも無駄にしないように集めなさい。」¹³ 彼らが集めると、大麦のパン五つから出たパンを人々が食べた後、その余ったものは十二のかごに一杯になった。¹⁴ 人々はイエスのなさった奇蹟を見て、「この方こそ、確かに、来るべき救い主に違いない」と言った。

¹⁵ そこで、人々はイエスを王にしようとして、無理矢理に連れて行こうとしたので、イエスはそれを知って、ただ一人寂しい山の中に退いてしまわれた。

湖の上を歩かれるイエス

¹⁶ 夕方になると、使徒たちは湖畔に下りて行った。¹⁷ そこにあった舟に乗り込み、向う岸のカペナウムに向った。もうすでに暗くなっていたのに、イエスはまだ彼らの所に、おいでにはなっていない。¹⁸ そればかりか、強風のため、湖は荒れ出した。¹⁹ こうして、四、五キロメートルほど漕ぎ出したころ、イエスが湖の上を歩いて舟に近付いて来られるのを見て、彼らは恐れた。²⁰ すると、イエスは彼らに言われた。「わたしですよ。恐れることはないでしょう。」²¹ そこで、彼らは喜んでイエスを舟にお迎えした。すると、舟はすぐ彼らが目指していた地に着いた。

わたしは命のパンです

²² その翌日、湖の向う岸にいた群衆は、そこには小舟が—そうしか無く、また、イエスが使徒たちと一緒にその小舟にお乗りにならず、ただ使徒たちだけが舟で行ったことを知っていた。²³ しかし、数そうの小舟がテベリヤから来て、主が感謝をささげて多くの人々にパンをお与えになった場所に近付いた。²⁴ 群衆は、イエスも使徒たちもそこにはいないのを知ると、自分たちもその小舟に乗って、イエスを捜しにカペナウムにやって来た。²⁵ そして、湖の向う岸で

イエスを見付けると、イエスに言った。「先生。いつ、ここにおいでになったのですか。」²⁶ イエスは、単刀直入にこう言われた。「よく言っておきますが、確かに、あなたがたがわたしを捜しているのは、奇蹟を見て、わたしを信じたからではなく、パンを食べて満腹したからに過ぎません。そうでしょう。²⁷ あなたがたは、いつもこの食物のような朽ちてしまうものにしか関心がありませんが、どうして朽ちることのない永遠の命を養うために一生懸命努力しないのですか。救いという永遠のものこそ、わたしがあなたがたに与えるものであり、天のお父様はそのために、わたしをこの世にお遣わしになったのです。」²⁸ そこで、彼らはイエスに質問した。「それでは、どういうことをしたら、創造主の御心にかなうことになるのでしょうか。」²⁹ イエスは答えて言われた。「創造主がお遣わしになったこのわたしを信じることです。」³⁰ そこで、彼らはイエスに言った。「それでは、あなたが救い主であるとおっしゃるなら、どんな奇蹟を見せてくださいますか。」³¹ 私たちの先祖たちは、荒野で食べる物が無くなった時、『モーセは彼らに天からパンを与えて食べさせた』と旧約聖書に記されている通り、毎日モーセがマナを与えました。あなたも毎日、私たちにパンを下さるとも言うんですか。」³² イエスは彼らに言われた。「よく言っておきますが、確かに荒野でパンを与えたのは、モーセではありません。天のお父様です。しかも、それは天からの命のパンではありませんでした。肉体に必要なパンに過ぎません。けれども、天のお父様は、天から命のパンを与えてくださいます。」³³ 命のパンというのは、命を与えるお方のことで、それは創造主によって遣わされたわたしです。わたしは、この世の人々に命を与えるために、創造主から遣わされたのです。」³⁴ そこで、彼らはイエスに言った。「主イエス様。それでは、毎日そのパンを私たちに下さいませんか。」³⁵ イエスは答えて言われた。「わたしがその命のパンです。霊の飢え渴きを満たすこのパンは、普通のパンではありません。わたしのもとに来て、

わたしを信じる人は、霊の飢え渇きが本当に満たされます。³⁶けれども、あなたがたはわたしを現に見ていながら、信じようとはしません。そのことを、わたしはあなたがたに言いましたね。それが問題なのです。³⁷あなたがたは自分たちが創造主の選民であることを誇っていますが、本当に天のお父様が選んでくださった人は皆、わたしの所に来ますし、わたしの所に来た人を、わたしは決して退けません。³⁸というの、わたしが天から降って来たのは、自分の思いのままを行なうためではなく、わたしをお遣わしになった天のお父様の御心を行なうためだからです。³⁹天のお父様の御心は、わたしにお与えくださった人々を、わたしが一人も失わずに、終りの日に復活させて、救いに入れることです。⁴⁰確かに、天のお父様の御心は、わたしを見て信じる人々が、皆救われることであり、わたしは終りの日にその人々を復活させます。」

⁴¹すると、ユダヤ人たちは、イエスが、「わたしは天から降って来たパンです」と言われたので、イエスに対してつぶやいた。⁴²そして言った。「あれは、ヨセフの子イエスではないか。われわれはその両親も知っている。どうして、『わたしは天から降って来た』などと言うのだ。」⁴³そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「どうしてわたしの言ったことで、そんなにつぶやくのですか。⁴⁴どんな人でも、天のお父様が導いてくださらなければ、わたしの所に来ることはできません。わたしの所に来る人は救いにあずかることができ、わたしはその人を、終りの日に復活させます。⁴⁵旧約聖書の預言書には、『彼らは皆、創造主によって教えられる』と記されていますが、天のお父様から真理を教えられた人はだれでも皆、わたしの所に来ます。⁴⁶だれも、実際に創造主を見た者はおりません。しかし、わたしは見たのです。わたしは天のお父様から来た者だからです。⁴⁷よく言うておきますが、確かに、だれであろうと、わたしを信じる人は救われます。⁴⁸わたしはあなたがたを救う命のパンだからです。⁴⁹あなた

がたの先祖たちは、荒野を旅していた時、マナを食べましたが、結局、最後には死んでしまいました。⁵⁰しかし、この命のパンは、天から降って来て、あなたがたの霊に命を与えるもので、それを食べる人、つまり信じる人は霊が死のうちにありません。⁵¹わたしは天から降って来た命のパンです。だれでもわたしを霊の栄養のために信じるなら、救われます。わたしは、世の人々を罪から救うために、この命を投げ出さなければなりません。」

⁵²すると、ユダヤ人たちは互いに論じて言った。「この人は、どういふふうにして、自分の命を投げ出して、私たちに食べさせることができるのだろうか。」⁵³そこで、イエスは彼らに言われた。「よく言うておきますが、確かに、わたしの肉を食べ、わたしの血を飲まなければ、あなたがたのうちに永遠の命はありません。⁵⁴わたしの肉を食べ、わたしの血を飲むというのは、世の人々を罪から救うために、十字架上で体を裂き血を流す、そのわたしを信じることです。そういう人々には永遠の命が与えられ、わたしはその人々を、終りの日に復活させます。⁵⁵世の人々のために身代りの犠牲となるわたし以外に、あなたがたの霊の命を養う食物はありません。⁵⁶世の人々のために身代りの死を遂げるわたしを信じる人は、わたしのうちに留まり、わたしもまたその人のうちに留まります。⁵⁷わたしは、わたしをお遣わしになった命の源である天のお父様との深い交わりによって生きています。それと同じように、わたしを信じる人も、わたしとの深い交わりを通し、わたしから与えられる命によって生きるのです。⁵⁸わたしは天から降って来たパンです。あなたがたの先祖たちが食べたマナのようなものとは全然違います。マナを食べた人は死んでしまいました。この命のパンを霊の栄養として自分の心の中に受け入れる人は、永遠の命を持つことができます。」⁵⁹これは、イエスがカペナウムの会堂で語られた説教である。

多くの弟子たちの蹟きと ペテロの信仰告白

⁶⁰ イエスの弟子たちの中にも、この説教を聞いて、蹟き、このように言う者がいた。「これはひどい言葉だ。第一、血なまぐさいし、何のことを言っているのか、さっぱり分らない。こんな言葉は聞いておれない。」⁶¹ イエスは弟子たちがこのようにつぶやいているのを知っておられ、彼らにこう言われた。「あなたがたはわたしの弟子なのに、こんなことに蹟くのか。⁶² それでは、もしわたしが天に帰って行くのを見たら、どうなるのですか。⁶³ 命を与えるのは聖霊です。この世のものではありません。ですから、わたしが話したことを受け入れることができるのは、この聖霊の助けによるわけです。⁶⁴ ところが、あなたがたの中には、わたしを信じない者がいます。」——イエスは初めから、ご自分を信じない者がだれであるのか、ご自分を裏切る者がだれであるのかを、知っておられた。——⁶⁵ そして、イエスは言われた。「ですから、『どんな人であっても、天のお父様が導いてくださらなければ、わたしの所に来ることはできません』と言ったでしょう。」

⁶⁶ この時から弟子たちの中の多くの者たちがイエスの言葉に蹟き、イエスから離れて行ってしまった。⁶⁷ そこで、イエスは十二使徒たちに言われた。「あなたがたもわたしから離れて行ってしまおうのですか。」⁶⁸ すると、シモン・ペテロが答えて言った。「主イエス様。私たちはだれの所へ参りましょう。主イエス様以外に、一体だれが救ってくださるでしょうか。⁶⁹ 私たちは、主イエス様こそ創造主がお遣わくださった救い主であると信じ、知っております。」⁷⁰ イエスは彼らに言われた。「あなたがた十二人を選んだのはわたしです。そのうちの一人がわたしを裏切ることを、わたしは知っています。」⁷¹ イエスは、イスカリオテのシモンの子ユダのことを言われたのである。このユダは十二使徒の一人でありながら、イエスを裏切る者としていた。イエスがこの時このようなことを

言われたのは、ペテロの告白を聞きながら、十字架上の死を考えておられたのである。

ガリラヤに留まる

⁷ ¹ その後、イエスはガリラヤ地方を巡回しておられた。それは、ユダヤ人の指導者たちがイエスを殺そうとねらっていたので、ユダヤ地方を巡回しようとはされなかった。まだイエスが死ななければならない時は来ていなかったからである。² 時は秋で、ユダヤ人の仮小屋の祭が近付いていた。³ そこで、イエスの弟たちはイエスに言った。「兄さん。今度の仮小屋の祭にもエルサレムへ行き、そこに居る弟子たちに奇蹟を示して、励ましてあげたいかがですか。⁴ こんな田舎にいたのでは有名にはなれません。有名になるんだったら、なんと言ってもエルサレムへ行かなければ。」⁵ 弟たちは、この時イエスが救い主であることを信じてはいなかった。⁶ そこで、イエスは彼らに言われた。「わたしがエルサレムで十字架に掛けて、身代りの死を遂げる時はまだ来ていません。わたしのように特別な使命を創造主から受けていないあなたがたには、特別な時は無いでしょう。⁷ それは、この世の人々がわたしを憎んでいることによっても分るはずですよ。わたしが彼らの罪を指摘するからです。けれども、あなたがたは憎まれたことがないではありませんか。⁸ ですから、あなたがたは祭のためにエルサレムへ上って行ったらよいでしょう。しかし、わたしは上っては行きません。わたしが死ぬ時は、まだ来ていないのですから。」⁹ こう言われて、イエスはガリラヤになお留まっておられた。

内幕にエルサレムへ上る

¹⁰ ところが、弟たちが祭のため、エルサレムへ上って行くと、イエスは、目立たぬように、ひそかに上って行かれた。¹¹ ユダヤ人の指導者たちは祭の時に、「あの人はどこにいるか」と言って、イエスを捜し求めていた。¹² そして、群衆の間には、イエスについて、いろいろな意見があって、ある人は、「善い人ではないか」

と言い、またほかの人は、「いや、あれは群衆を惑わしている」と言った。¹³しかし、ユダヤ人の指導者たちを恐れて、いつもひそひそと話し合っていた。

祭の時の教えと 人々のキリストに対する態度

¹⁴祭の中ごろになった時、イエスは主の宮の所へ行って、人々に教え始められた。¹⁵ユダヤ人の指導者たちは驚いて言った。「この人は、われわれの学校で正式に学んだこともないのに、どうしてこんなに旧約聖書をよく知っているのだろう。」¹⁶そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「わたしが教えていることは、わたしの考えではなく、わたしをお遣わしになった天のお父様のものです。¹⁷だれでも、創造主の御心を行なおうと思う人は、わたしの教えていることが創造主からのものか、それともわたし自身の考えに過ぎないのかということが分ります。¹⁸だれでも、自分の考えを語る人は、自分の栄誉を求めますが、自分を遣わした方の栄光を求める人は、真実であって、その人の言うことにごまかしはありません。¹⁹モーセが与えた律法をわたしは守っているのに、あなたがたはだれ一人として守ってはいません。それなのに、どうしてわたしを殺そうとするのですか。」²⁰群衆は答えた。「あなたは悪霊につかれて、頭がおかしくなっている。だれがあなたを殺そうとなんかしているものですか。」²¹イエスは、彼らに答えて言われた。「わたしは安息日に病人を治す奇蹟をしました。すると、あなたがたは皆驚きました。²²しかし、あなたがたも安息日に労働をしています。それは、創造主の民であることを表す割礼です。モーセが割礼を命じたからです。——でも、本当はモーセの時代よりも、さらに昔の族長時代からあります。——それで、あなたがたは、安息日にも割礼をしているのです。²³生れて八日目が安息日に当たっていれば、モーセの律法が破られないようにと言って、安息日であっても、割礼をすでしょう。それなら、わたしが安息日に病人を治した

からといって、どうして裁くのですか。²⁴表面的なことだけで判断を下さないで、物事の本質を正しく見極めなければなりません。」

²⁵そこで、エルサレムのある人たちが言った。「この人は、われわれの指導者たちが殺そうとしている人ではないか。²⁶この人は公然と語っているのに、どうして何にも言わないのだろう。議員たちは、この人が救い主であることを、本当に知っているのだろうか。²⁷われわれはこの人がどこの出身が知っている。もし本当の救い主なら、突然現れるはずだから、こんなことはないはずだ。」²⁸イエスは主の宮の庭で教えられた時、大声を張り上げてこう言われた。「あなたがたはわたしがどこの出身であるかを知っているとっています。確かに、わたしはこの地上に生れ、ある時までこの地上のある所で生活しました。しかし、わたしは天のお父様から遣わされてこの世にきました。あなたがたは、天のお父様を本当は知らないのです。²⁹けれども、わたしはよく知っています。わたしは天のお父様の所から来たからです。」³⁰そこで、人々は怒って、イエスを捕まえようとしたが、だれもイエスに手を掛けようとはしなかった。それは、イエスが捕まえられる時がまだ来ていなかったからである。³¹けれども、群衆の中の多くの人々は、イエスを信じて、こう言った。「たとい救い主が来られたとしても、この方以上の奇蹟をされるだろうか。」³²群衆がイエスについて、このようなことをひそひそと話しているのを、パリサイ派の人たちが耳にしたので、祭司長やパリサイ派の人たちは、イエスを捕えようとして、役人たちを遣わした。³³その時、イエスは言われた。「もう少しの間、わたしはあなたがたと一緒にいて、それから天のお父様のみもとに帰ります。³⁴あなたがたはわたしを捜しても、わたしは見付かりません。あなたがたは、わたしと一緒に、そこへ行くことはできません。」³⁵そこで、ユダヤ人たちは互いに言った。「私たちが見付けれないとは、一体どこへ行くこうしているのだろう。外国にいるユダヤ人の所へ行って、外国人に伝道しようというのだ

ろうか。³⁶『あなたがたはわたしを捜しても、わたしは見付かりません』とか、『あなたがたは、わたしと一緒に、そこへ行くことはできません』と、あの人が言ったのは、どういう意味なのだろうか。』彼らはイエスが天のお父様のみもとに帰ることを理解できなかった。

命の水の川

³⁷ 仮小屋の祭が最高潮に達する最後の日に、イエスは立って、大声でこう言われた。「だれでも心が渇いている人は、わたしのもとに来て、心の渇きをいやす水を飲みなさい。³⁸ わたしを信じる人は、旧約聖書の預言書で教えられているように、その人の心の奥底から、命の水が川となって流れ出るようになります。」³⁹ これは、イエスを信じる人々が後で受ける聖霊のことを言われたのである。それは、イエスが十字架に付けられ、復活、昇天されてから、与えられるのである。

群衆の中での意見の対立

⁴⁰ この言葉を聞くと、群衆のうちのある者は、「あの方は、確かにモーセが語っていたあの預言者に相違ない」と言い、⁴¹ またほかの者は、「この方こそ救い主だ」と言い、また別の者は、「まさか救い主がガリラヤから出るはずがない。⁴² 救い主はダビデの子孫から出るのだし、ダビデが生れたベツレヘムの村から出ると、旧約聖書に記されているではないか」と言った。⁴³ こうして、イエスのことについて、群衆の間で意見が分れ、対立が起ってしまった。⁴⁴ その中にはイエスを捕まえようとした者もいたが、だれもイエスに手を掛けようとはしなかった。

ユダヤ人指導者たちの不信仰

⁴⁵ それから、役人たちは祭司長やパリサイ派の人たちの下に帰って来た。彼らは役人に言った。「どうしてあの男を引いて来なかったのか。」⁴⁶ 役人たちは答えて言った。「あの男は実に驚くべきことを話しています。あんなことを聞くのは初めてです。」⁴⁷ すると、パリサイ派の人

たちが言った。「お前たちも惑わされているのだ。⁴⁸ 議員やパリサイ派の者で、イエスを信じた者がいるか。⁴⁹ あの連中は律法を知らない無知なやつらではないか。みんな不信心な呪われた連中だ。」⁵⁰ 彼らのうちの一人で、いつか夜イエスのもとに来たことのあるニコデモは、彼らに言った。⁵¹ 「私たちが重んじている律法には、まずその人から直接に聞き、その人が何をしているのかを調べた上で、判決を下さなければならぬと記されておりますが、その点はいかがですか。」⁵² 一同はニコデモに言った。「貴公もガリラヤの出身でしたかな。調べてご覧なさい。ガリラヤからは、救い主ばかりか、預言者だって一人も出たことはありませんぞ。」⁵³ そして、人々は皆、それぞれ自分の家に帰って行った。

姦淫の現場で捕えられた女

⁸ ¹ イエスはまたオリーブ山に行かれた。² そして、朝早く、もう一度主の宮に行かれた。人々が皆、みもとに集まって来たので、イエスは座って、彼らを教えておられた。³ すると、律法学者とパリサイ派の人たちが、姦淫の現場で捕えたとする一人の女を連れて来て、人々の真中に立たせて、⁴ イエスに質問した。「先生。この女は姦淫の現場で捕えられたのです。⁵ モーセの律法では、こういう女は石で打ち殺せと命じています。ところで、先生はどうせよとおっしゃいますか。」⁶ このようなことを言ったのは、イエスを試そうという魂胆からであった。そして、イエスを板挟みにし、どちらの答えをしても、イエスを断罪しようというわなが仕掛けられていた。ところが、彼らの魂胆を見抜かれたイエスは何も答えずに、しゃがんで、地面に指で何か字を書いておられた。⁷ イエスが答えに窮していると見た彼らは、うるさく答えをせがんでやめなかった。そこで、イエスは立ち上がって、こう言われた。「石を投げ付けてもよろしい。ただし、罪のやましさを覚えたことのない人でなければなりませんぞ。」⁸ イエスは、またしゃがんで、地面に何

かを書き続けられた。⁹ イエスのその言葉を聞くと、皆良心が責められ、年寄を始め、一人去り二人去り、とうとうイエスとその女だけになってしまった。¹⁰ イエスは立ち上がり、その女に言われた。「あなたを訴えていたあの威勢のいい人たちは、どこへ行ってしまいましたか。あなたを罪に定める人はいなかったのですか。」¹¹ 女が、「だれもいません」と答えると、唯一人、人を罪に定めることのできるお方である主イエスは、こう言われた。「わたしもあなたを罪に定めません。元気を出して行きなさい。これからは、もう二度と罪を犯さないことです。」

わたしは世の光です

¹² イエスはまた彼らに語ってこう言われた。「わたしは世の光です。わたしに従って来る人は、決して暗闇の生活をするのがなく、命の光を持つことができます。」¹³ すると、パリサイ派の人たちが、イエスに言った。「あなたは、自分で自分のことを証言しているのですから、あなたの証言は真実ではありません。」¹⁴ イエスは答えて言われた。「もしわたしが普通の人間だとしたら、確かにあなたがたの言う通りです。しかし、わたしはあなたがたとは違います。わたしはすべてのことを知っている創造主の子だからです。¹⁵ あなたがたは本当のことを何も知らず、ただ人間の目で見たとこで載っています。けれども、わたしは今ほだれをも裁きません。¹⁶ そう言っても、わたしが裁く時には、その裁きは正しいのだということを覚えてください。それは、わたしが裁く時には、わたしと一緒に、わたしをこの世にお遣わしになった天のお父様が裁かれるからです。¹⁷ モーセの律法にも、二人の証言は真実だと書かれてあるでしょう。¹⁸ 天のお父様とわたし自身が、わたしについて証言しています。」¹⁹ すると、彼らは言った。「さっきからあなたは、『お父様、お父様』と言っていますが、あなたのお父様というの、どこにいるんですか。」イエスは答えられた。「あなたがたは、わたしもわたしのお

父様も知りません。もしわたしを知っていたら、天におられるわたしのお父様も知っていたはずです。」²⁰ イエスは、このことを主の宮の献金箱の所で教えておられた。しかし、だれもイエスを捕まえなかった。それは、イエスが捕まえられる時がまだ来ていなかったからである。

父である創造主について教える

²¹ イエスは、また彼らに言われた。「わたしは間もなくこの世を去って行きます。あなたがたはわたしを捜し求めるでしょうが、わたしはもうこの世にはおりません。あなたがたはわたしを信じることができなくて、自分の不信の罪のまま死ぬでしょう。不信の者たちは、永久にわたしの行く所に来ることはできません。」²² そこで、ユダヤ人たちは言った。「わたしの行く所に来ることができないと言ったのは、もしかすると自殺でもするつもりなのではないだろうか。」²³ そこで、イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、元々この世のものであり、朽つべき人間に過ぎません。しかし、わたしは違います。永遠の天の御国に属する者です。²⁴ そういうわけで、わたしは、あなたがたが自分の不信の罪のために死ぬと言ったのです。すべての人はアダムの子孫として罪の中に生れて来た罪人です。ですから、創造主の子であるわたしを信じ、悔い改めなければ、罪のために滅んでしまいます。」²⁵ すると、彼らはイエスに言った。「あなたは一体だれなんですか。」イエスは答えられた。「そのことなら、最初からずっと言っているではありませんか。²⁶ わたしは、あなたがたについて教えてあげなければならないことや、裁かなければならないことが沢山あります。しかし、わたしはそうしようとは思いません。わたしは、わたしをこの世にお遣わしになった天のお父様から聞いたまを語るだけです。」²⁷ 彼らは、イエスが天の父である創造主のことを語っておられたのに、少しも分っていなかった。²⁸ イエスは言われた。「あなたがたは、わたしを十字架に付けてしまってからでない、わたしが本当にだれであったかということにつ

いても、わたしが天のお父様の命じられるままに話をしていたということについても、分らないでしょう。²⁹ わたしをこの世にお遣わしになった天のお父様は、いつもわたしと一緒にいてくださいます。それは、わたしがいつも天のお父様の御心にかなうことを行なうからです。」³⁰ イエスがこれらのことを話しておられると、ユダヤ人の指導者の中の多くの人々が、イエスを救い主と信じた。

罪を犯し続ける者は、罪の奴隷であり、 真理であるわたしは あなたがたを自由にする

³¹ そこで、イエスはその信じた人々にこう言われた。「あなたがたが、わたしの教えた通りの生き方をしていくな、あなたがたはわたしの弟子です。³² また、真理であるわたしを知りようになり、わたしは、あなたがたを罪から解放して、自由にしてあげます。」³³ 彼らはイエスに答えた。「私たちははれっきとしたアブラハムの子孫で、奴隷になったことなどありませんよ。どうして、『自由にしてあげます』などとおっしゃるんですか?」³⁴ イエスは彼らに答えて言われた。「よく言うておきますが、確かに罪を犯し続けている者は皆、罪の奴隷です。³⁵ 奴隷というものは、いつまでもその家にいられるとは限りません。しかし、その家の子であれば、いつまでもいることができます。³⁶ ですから、わたしがあなたがたを罪から解放して、自由にしてあげれば、あなたがたは、自由人となり、創造主の子となるのです。³⁷ あなたがたがアブラハムの子孫であることぐらいは、よく分っています。けれども、あなたがたの中には、このわたしを殺そうとしている者がいます。それは、わたしの教えていることがよく分っていないからです。³⁸ わたしは、天におられるわたしのお父様の御心のままに語っていますし、あなたがたは自分たちのお父さんの命じられるままを行なっています。そこに、わたしとあなたがたの間には大きな違いがあるのです。」³⁹ 彼らは答えて言った。「私たちのお父さんはアブラハムです

よ。ですから、私たちはアブラハムの子孫です。」イエスは彼らに言われた。「あなたがたがアブラハムの子孫だと言うのなら、アブラハムのした善い行ないに従ったらどうですか。⁴⁰ ところが、今あなたがたは、わたしが天のお父様から聞いた真理を話している、このわたしを殺そうとしています。アブラハムはそんなことはしませんでした。⁴¹ あなたがたが行なっているのは、あなたがたにそうさせている者がいるのです。あなたがたはその子供です。」彼らは言った。「私たちがアブラハムの子孫でないと言うのなら、私たちが不品行によって生れた不信の民だと言うんですね。とんでもない。私たちは、唯一人の創造主を天のお父様と呼んでいる選民なんですよ。」⁴² イエスは言われた。「もしあなたがたが創造主を天のお父様と言うのなら、どうしてその子であるわたしを愛さないのでしょうか。わたしが今ここにいるのは、天のお父様から遣わされて来ているからです。⁴³ どうしてあなたがたは、わたしの言うことが分らないのでしょうか。それは、きつと何があなたがたの理解を妨げて、分らないようにしているのです。⁴⁴ それは悪魔にほかなりません。あなたがたは悪魔を父とし、悪魔から出て来るとしか考えられません。悪魔は、天のお父様に逆らう者であり、初めから、偽り者であり、また人殺しです。⁴⁵ わたしは真理を話しているのに、あなたがたはわたしを信じません。それが何よりの証拠です。⁴⁶ あなたがたとわたしとは全く違うのです。その違いの原因は何でしょうか。わたしの方が間違っているのでしょうか。もしそうなら、その点を指摘してみてください。もしも指摘できないなら、わたしの方が正しいのです。それなら、どうしてわたしを信じないのですか。⁴⁷ もし本当に創造主によって生れ変らせていただいた創造主の子であるなら、創造主の言葉に聞き従います。ですから、あなたがたが聞き従わないのは、あなたがたが創造主によって生れ変らせていただいた創造主の子でない何よりの証拠ではありませんか。」

アブラハムが生れる前から わたしは存在している

⁴⁸ ユダヤ人の指導者たちは、イエスに対し怒りを込めて、こう言った。「やっぱり、あなたは異常だ。私たちがあなたのことをユダヤ人ではなくて、悪霊につかれて気が変になっていると言った通りではないですか。」⁴⁹ イエスはそれに答えて言われた。「わたしは悪霊などにつかれているわけではありません。わたしは天のお父様をあがめています。それなのに、あなたがたがわたしを見下しているではありませんか。⁵⁰ わたしは自分の栄誉を求めはしません。栄誉を求められる方は天のお父様です。そして、天のお父様こそすべてを裁く権能をお持ちです。⁵¹ よく言っておきますが、確かに、わたしの言うことに耳を傾け、従う人は、決して死ぬことがありません。」⁵² ユダヤ人の指導者たちは、イエスに言った。「ああ、これで、あなたが正常な人間ではなく、悪霊につかれて気が変になっていることがよく分った。アブラハムも預言者たちも皆死んだのに、あなたは、『わたしの言うことに耳を傾け、従う人は、決して死ぬことがない』と言うんですか。」⁵³ アブラハムも預言者たちも皆死んだんですよ。あなたは自分をだれだと思っているんですか。」⁵⁴ イエスは彼らに答えて言われた。「わたしがかもしも自分自身について誇るのであれば、わたしをつまらぬ者と思ってもよいでしょう。しかし天のお父様がわたしを認めてくださっているのです。しかも、その天のお父様というのは、あなたがたが自分たちの創造主であると言っているお方です。⁵⁵ しかし、あなたがたはこの方を本当に知ってはいません。もし知っていたら、あなたがたが今言っているような途方もないことは言わないでしょう。けれども、わたしはよく知っています。わたしのお父様だからです。わたしはこのお父様の御言葉に従っているのです。もしも、わたしがお父様を知らないなどと言ったら、あなたがたのようにうそつきとなってしまいます。⁵⁶ あなたがたが自分たちの先祖だと

言っているアブラハムは、救い主であるわたしがこの世に来る日のことを待望していました。彼はまだ来ぬその日を、信仰によって望み見て喜んでいたので。」⁵⁷ そこで、ユダヤ人の指導者たちはイエスに向かって言った。「あなたはまだ五十歳にもなっていないのに、アブラハムに会ったことがあると言うんですか。」⁵⁸ イエスは彼らに言われた。「よく言っておきますが、確かに、わたしはアブラハムが生れるよりも前から存在していたのです。この真理をよく覚えておきなさい。」⁵⁹ すると、ユダヤ人の指導者たちは、石を取って、イエスに投げ付け、殺そうとした。しかし、イエスは彼らから身を隠し、主の宮から出て行かれた。

安息日に生れつきの盲人を治す

9 ¹ イエスが道を歩いておられると、生れつきの盲人がいた。² 弟子たちは、この盲人を見て、イエスに尋ねて言った。「先生。この人が生れつき盲人なのは、だれが罪を犯したためでしょうか。本人でしょうか。それとも、両親でしょうか。」³ イエスは答えられた。「本人でも両親でもありません。だれが罪を犯したのかなどと聞いて、そこに解決があるでしょうか。この盲人が生れつき盲目であったことも創造主の御心に無かったことではありません。創造主はこの盲人の身の上に御業をなさろうとしておられるのです。⁴ わたしたちは、わたしをお遣わしになった天のお父様の働きを、この地上に残されている後わずかの間に、してしまわなければなりません。わたしがこの世を去る時は間もなく来ようとしています。⁵ わたしがこの世にいる間、わたしは世の光としての働きをします。」⁶ イエスはそう言って、地面につばを吐き、そのつばで泥を作り、その泥を盲人の目に塗ってこう言われた。⁷ 「シロアムの池に行って洗いなさい。」そこで、彼は行って洗った。すると、見えるようになって、帰って行った。「シロアム」とは「遣わされた者」という意味であったので、そこで洗って見えるようになったことは、天のお父様から遣わされたイエス・

キリストが見えるようにしてくださったことを暗示していた。⁸近所の人たちや、前に彼が乞食をしていたのを見て知っていた人たちは、こう言った。「この人は、座って、乞食をしていた人ではないか。」⁹それに賛成する人もあり、また違った意見を持っている人もいた。「いや、ただ似ているだけだ」と言った。それに対して本人は、「私がその当人です」と言った。¹⁰すると、彼らはこう言った。「それでは、あなたの目はどうして見えるようになったのですか。」¹¹そこで、彼は答えた。「イエスというお方が、つばで泥を作って、私の目に塗り、『シロアムの池に行って洗いなさい』と言われました。その通りにしますと、見えるようになりました。」¹²彼らは、「それでは、その人はどこにいますか」と言うと、彼は、「知りません」と答えた。¹³それから、彼らは前に盲人であったその人をパリサイ派の人たちの所へ連れて行った。¹⁴イエスが泥を作って彼の目を見るようにしておやりになったのは、安息日であった。¹⁵そこで、パリサイ派の人たちも、彼にどのようにして見えるようになったかを尋ねた。彼は答えた。「あのイエスという方が私の目に泥を塗ってください、私が目を洗うと、見えるようになりました。」¹⁶すると、パリサイ派のある人はこう言った。「そのイエスというやつは、創造主から来たのではない。第一、安息日を守っていないではないか。」しかし、ほかの人たちはまたこう言った。「でも罪人だとしたら、どうしてこんな奇蹟を行なうことができるだろうか。」こうして、彼らの間に分裂が起こった。¹⁷そこで、彼らはもう一度盲人に聞いた。「目が見えるようにしてくれたあの人を、一体だれだと思っているのか。」彼は答えた。「あのこそ創造主から遣わされて来た預言者に間違いありません。」¹⁸ところが、ユダヤ人の指導者たちは、目が見えるようになったその男の言うことを信じることができず、その両親を呼び出して、¹⁹こう尋ねた。「この男はあなたがたの息子ですか。生れた時から盲人でしたか。もしもそうなら、どのようにして目が見えるようになったのです

か。」²⁰両親は答えて言った。「これは確かに私の息子で、生れつき盲人でした。」²¹しかし、どのようにして今見えるようになったのか、また、だれがあの子の目を見るようにしてくれたのか存じません。本人に聞いてください。もう大人ですから、自分で話してください。」²²両親はユダヤ人の指導者たちを恐れてこう言ったのであった。それは、彼らがイエスを救い主であると告白する者は、だれでも会堂から追放すると公言していたからである。²³それで、両親は知っていたのに、はっきりと答えることをはばかったのである。

²⁴そこで、彼らは盲人であった人をもう一度呼び出して言った。「あのイエスにはなく、創造主に栄光を帰することを忘れないように。私たちはあのイエスが悪い人間であることをよく知っているのだ。」²⁵彼は答えた。「あの方が悪い人間かどうか、私は知りません。けれども、ただ一つのことだけは確かです。私は盲人でしたが、今はこの通り見えるようになっていることです。」²⁶そこで、彼らは言った。「あの男はお前に何をしたのか。どのようにして目を見るようにしたのか。」²⁷彼は驚いて言った。「もうお話しではありませんか。あなたがたは信じてくれませんでした。どうしてまた聞くのですか。今度はあの方の弟子になりたいというわけですか。」²⁸彼らはののしって言った。「お前はあいつの弟子かもしれない。しかし、私たちはモーセの弟子だ。」²⁹創造主は確かにモーセにお語りになった。しかし、あいつについては何も知らないぞ。」³⁰彼は答えた。「これは驚きました。あなたがたはあのイエスという方をご存じないとおっしゃる。けれども、あの方は私の目を見るようにしてくださったのですよ。」³¹創造主は悪い人間の言うことはお聞きになりませんが、創造主を敬い、その御心を行なう人の言うことなら、必ず聞いてくださいます。³²生れつき盲人であった人の目を見るようにした人がいたという話は、今までに聞いたことがありません。³³もしあの方が創造主から来られたのでなかったら、どうしてそんなことがで

きたでしょう。」³⁴ 彼らは答えて言った。「こいつ何を言うか、悪者めが。」そして、彼を追放してしまっ

た。³⁵ イエスは、彼がユダヤ教の会堂から追放されたことを聞き、彼を捜し出し、こう言われた。「あなたは救い主を信じますか。」³⁶ その人は答えた。「イエス様。その方はどなたでしょう。私は信じたいのです。」³⁷ イエスは彼に言われた。「あなたはその人に会いました。今あなたが話しているのがその人ですよ。」³⁸ 彼は言った。「はい、主イエス様。信じます。」そして、イエスを拝した。³⁹ そこで、イエスは言われた。「わたしは裁きのために、この世に来ました。この裁きというのは、区別をすることです。霊が盲目であった人は見えるようになり、何でも見えると思っている人は、実は霊が盲目なのだとこのことを知ってもらうためです。」⁴⁰ パリサイ派の中で、そこにいた人々が、このことを聞いて、イエスに尋ねた。「それでは、私たちも盲目だとおっしゃるのですか。」⁴¹ イエスは答えて言われた。「もしあなたがたの霊が盲目であると自覚していたら、赦されたでしょう。しかし、あなたがたは何でも見えると自負しているではありませんか。それが罪なのです。」

羊と羊飼

10 ¹ 「さて、このことをよく覚えていてください。羊の囲いに入るのに、門から入らないで、ほかの所から乗り越えて入る者は、だれでも盗人であり、強盗です。² 羊飼は門から入ります。³ 門番は羊飼のために門をあけ、羊はその声を聞き分けず。羊飼は、自分の羊の名前を呼んで、外へ連れ出します。⁴ 自分の羊を皆連れ出すと、自分が先頭に立って行きます。羊は羊飼の声を知っているので、その後について行きます。⁵ しかし、ほかの人には決してついて行きません。かえって逃げ出します。その声を知らないからです。」⁶ イエスはこのたとえを彼らに話されたが、彼らはそれが何のことが、さっぱり分らなかった。

わたしは羊の門

⁷ そこで、イエスはそれを説明して言われた。「よく言っておきますが、確かに、わたしは羊の門です。⁸ わたしよりも前に来て、自分は救い主だと言った者は、偽者であり、羊の盗人、強盗です。確かに、羊は彼らの言うことを聞きませんでした。⁹ しかし、わたしは門です。だれでも門であるわたしの所から入る人は救われます。また、良い牧草を見付けることができます。¹⁰ 盗人の目的は、羊を盗んだり、殺すことですが、わたしの目的は羊に命を与え、しかも豊かに与えることです。すなわち、人に本当の命を与え、それによって豊かな生活を送らせることです。」

わたしは良い羊飼

¹¹ わたしは良い羊飼です。良い羊飼は、羊のために自分の命を捨てます。¹² しかし、雇い人は、狼が来ると、自分に危害が加わらないように、逃げ出して、羊を置き去りにしてしまいます。ですから、狼は思う存分羊を食い散らします。¹³ それは、彼が雇い人に過ぎないからです。羊のことを親身になって面倒を見ようなどという気持はありません。¹⁴ しかし、わたしは良い羊飼です。わたしは自分の羊を知っていますし、わたしの羊もわたしをよく知っています。¹⁵ それは、天のお父様がわたしをご存じであり、また、わたしが天のお父様を知っているのと同じです。わたしは羊のために命を捨てます。¹⁶ わたしには、このユダヤ人という囲いに属さないほかの羊、つまり異邦人の信者たちにも関心があります。わたしは彼らをも導かなければなりません。彼らもわたしの声に聞き従い、一人の羊飼の下で一つの群となるのです。¹⁷ 天のお父様はわたしを愛してください。それは、わたしが彼らのために命を捨てるからです。しかし、それはただ命を粗末にしてしまうのではなく、やがて復活によって、再びそれを自分のものとするわけです。¹⁸ どんな人であろうと、わたしから命を奪い取ることのできる人はいませ

ん。わたしは自分の意志で命を捨てます。わたしには、そうする権能があり、再びそれを得る権能もあります。それは、天のお父様から頂いたものです。』

ユダヤ人指導者たちの間の分裂

¹⁹ イエスがこのことをお語りになると、これを聞いていたユダヤ人の指導者たちの間に、また分裂が起った。²⁰ そのうちのある者たちは、こう言った。「あいつは悪霊につかれて、気が変になってしまった。どうしてあんなやつ言うことを聞くのか。」²¹ しかし、ほかの者たちは、こう言った。「これは、悪霊につかれた者の言葉ではない。悪霊がどうして盲人の目を見えるようにしてやることができるか。」

主の宮聖別の祭の時

²² 冬が来て、エルサレムでは、主の宮聖別の祭があった。²³ イエスは、主の宮の中のソロモンの廊の所を歩いておられた。²⁴ そこで、ユダヤ人の指導者たちは、イエスを取り囲んで尋ねた。「いつまであなたは、私たちに気をもませ続けるのですか。もしもあなたが本当に救い主なら、はっきりそうだとおっしゃってください。」²⁵ イエスは彼らに答えて言われた。「わたしははっきり話しているのに、あなたがたは少しも信じようとしません。あなたがたはわたしが天のお父様のお名前によって行なっている奇蹟こそ、その証拠です。²⁶ しかし、あなたがたはわたしを信じません。それは、あなたがたがわたしの羊でない何よりの証拠です。²⁷ わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。また、わたしは彼らを知っています。ですから、彼らはわたしに付いて来ます。²⁸ わたしは彼らを永遠の救いに入れますから、決して滅びることがありません。また、わたしから彼らを奪い去ることのできる者は一人もいません。²⁹ わたしに彼らをお与えになった天のお父様は、だれよりも偉大な力の持ち主ですから、天のお父様のみもとから彼らを奪い去ることのできる者は、一人もいません。³⁰ わたしと天のお父様とは、実は

同じ創造主なのです。』

³¹ このことを聞いて、ユダヤ人の指導者たちは、また石を取り上げてイエスを殺そうとした。³² イエスは彼らに答えられた。「わたしが多くの奇蹟を行なって人々を助けてあげたのは、天のお父様のご指示によるものです。そのうちのどの奇蹟のために、わたしを殺そうとするのですか。」³³ 彼らは答えた。「善い行ないのために殺すわけではない。創造主を冒瀆したからだ。あなたは人間でありながら、自分を創造主としているではないか。」³⁴ イエスは彼らに答えられた。「あなたがたの持っているあの確かな旧約聖書の中には、地上の王たちや預言者たちのことを、いわゆる創造主と呼んでいる箇所があります。³⁵ もし軽い意味で、そういう人々をも創造主と呼んでいるのだとしたら、³⁶ 天のお父様が任命してこの世にお遣わしになったこのわたしが、自分のことを創造主の子であると言ったからということで、どうして創造主を冒瀆することになるのですか。³⁷ もしわたしが天のお父様の奇蹟を行っていないなら、わたしを信じなくてもよろしい。³⁸ しかし、行なっているのですから、たとえわたしの言うことが信じられなくても、その奇蹟を信じたらよいでしょう。そうすれば、天のお父様がわたしのうちにおられ、わたしが天のお父様のうちにいることを、確信できるようになるはずです。」³⁹ 彼らは、またイエスを捕えようとした。しかし、イエスは彼らの手から逃れて行かれた。

ヨルダン川の向うへ行く

⁴⁰ そして、イエスはまたヨルダン川を向うに渡って、バプテスマのヨハネが初めてバプテスマを授けていた所へ行き、そこに滞在された。⁴¹ 多くの人々がイエスの所に来て、このように言っていた。「バプテスマのヨハネは何一つ奇蹟を行なわなかったが、この方についてヨハネが話していたことは皆本当だった。」⁴² そして、多くの人々がこの地方でイエスを信じた。

死んだラザロの生き返り

11 エルサレムに近いバタニヤの村にマリヤとマルタという姉妹とその弟ラザロが住んでいた。このラザロが病気になるまで、²マリヤは、主の御足に高価な香油を塗り、自分の髪の毛でふいた女である。³マリヤとマルタは、イエスの所に使いをやって、こう言われた。「主イエス様。あなたが愛しておられるラザロが病気で。」⁴イエスはこれを聞いて言われた。「この病気は死で終わってしまうのではなく、創造主の栄光が現されるためのものです。また創造主の子であるわたしが、これによって栄光を受けるようになります。」⁵イエスは、マルタとマリヤとラザロを特別に愛しておられたので、⁶ラザロが病気だということを知られても、なお、二日間そこにいる、動くことはされなかった。⁷二日たってから、イエスは弟子たちに、「またユダヤの地方へ行ってみよう」と言われた。⁸弟子たちはそれに反対して言った。「先生、つい二、三日前に、ユダヤの地方で、殺され掛かったのではありませんか。またそこへいらっしゃるのですか。」⁹イエスは言われた。「昼間の時間は十二時間あります。だれでも、昼間歩けば、躓くことはありません。光があるからです。ちょうどそれと同じように、わたしも、天のお父様から伝道するように、ゆだねられている期間があります。その時には、だれからも妨げられることはありません。¹⁰しかし、夜歩けば、躓きます。真暗間だからです。」¹¹そう言われてから、イエスは弟子たちに話された。「わたしたちの友ラザロは眠っています。ですから、わたしはラザロを起しに行こうと思います。」¹²すると、弟子たちはイエスがラザロのことをただ眠っているとも思っているのだと考えて、「主イエス様。眠っているのですしたら、安心です」と言った。¹³しかし、イエスはラザロがもうすでに死んでしまったことをご存じであり、そのことをこう表現されたのであった。¹⁴そこで、今度ははつきりと、こう言われた。「ラザロは死にました。

¹⁵わたしは、あなたがたが本当に信じるようになるために、そこにいなかったのが、むしろよかったと思っています。さあ、ラザロの所へ行きましょう。」¹⁶すると、「双子」というあだ名を付けられたトマスが、ほかの弟子に言った。「私たちも主と一緒にいって死のうではないか。」

¹⁷イエスがバタニヤへ行ってご覧になると、ラザロは死に、墓に葬られてから、もう四日もたっていた。¹⁸バタニヤはエルサレムから、ほんの二、三キロの所にあった。¹⁹ユダヤ人の指導者たちが大勢、マルタとマリヤの家に来て、彼女たちを慰めていた。²⁰マルタは、イエスが来られたと聞いて、迎えに行つたが、マリヤは家の中にいて出て行かなかった。²¹マルタは、イエスに不平を言った。「主イエス様。もしすぐにもここへ来てくださっていたら、ラザロは死ななかつたでしょうに。²²けれども、今でも遅くはありません。イエス様が、天のお父様にお祈りになれば、どんなことでも聞かれますわ。」²³イエスは彼女に言われた。「あなたの弟ラザロは必ず生き返ります。」²⁴マルタは言った。「私は、この世の終りの復活の時に、そうなることは存じております。」²⁵イエスは言われた。「わたしは死人を復活させ、また、死んだ人にもう一度命を与えて、生き返らせることのできる者です。わたしを信じる人はたとえ死んでも、再び生きることが出来ます。²⁶また、わたしを信じる人々は永遠の救いに入れますから、決して滅びることはありません。このことを信じますか。」²⁷マルタはイエスに言った。「はい、主イエス様。私はあなたが長い間待望してきた創造主の御子の救い主であると信じております。」²⁸こう言ってから、帰って行って、妹のマリヤを呼び、「先生がおいでになって、あなたを呼んでいらっしゃるわ」とささやいた。²⁹マリヤはそれを聞くと、すぐに立ち上がって、イエスの所へ行った。

³⁰イエスは、まだ村の外におられ、マルタが出迎えた所に立っておられた。³¹マリヤを慰めようとして家に来ていたユダヤ人の指導者たち

は、マリヤが急いで出て行くのを見て、彼女は墓へ泣きに行くのだらうと思い、その後について行った。³² マリヤはイエスのおられる所に来て、お目に掛くと、その足下にひれ伏し、彼女も同じように不平を言った。「主イエス様。もしすぐにもここへ来てくださっていたら、ラザロは死ななかつたでしょうに。」³³ イエスは彼女が泣き、彼女と一緒に来たユダヤ人の指導者たちも泣いているのをご覧になると、一方では人をこの悲惨な死に追いやる悪魔に対して憤りを覚え、また、もう一方では彼らの悲しみに深く心を動かされ、³⁴ こう言われた。「ラザロをどこに葬りましたか。」彼らはイエスに言った。「こちらです。」³⁵ イエスは涙を流された。³⁶ すると、ユダヤ人の指導者たちは言った。「どんなにラザロを愛しておられたことか。」³⁷ しかし、彼らの中にはこう言う者たちもいた。「盲人の目を見るようにしたあの方でも、ラザロを死なせないでおくことはできなかったのだらうか。」

³⁸ イエスは、またも憤りを覚えながら、墓の所に来られた。墓はほら穴で、その入口の所には、石が置かれていて、戸の代りをしていた。

³⁹ イエスは厳かに言われた。「その石を取りのけなさい。」すると、マルタは言った。「もう四日もたっていますから、あげたら臭くてたまりません。」⁴⁰ イエスは彼女に言われた。「もしあなたが信じるなら、創造主の驚くべき奇蹟を見ることができると言ったではありませんか。」

⁴¹ そこで、人々は石を取りのけた。イエスは目を上げて、言われた。「天のお父様。今までずっとわたしの祈りに答えてきてくださいましたことを、感謝いたします。⁴² わたしは、あなたがいつもわたしの祈りに答えてくださっていることをよく知っておりますが、今わたしの周りにいる人々が、わたしのことをあなたから遣わされて来たのだと信じるようにと願って、このように申し上げております。」⁴³ それから、イエスは大声でラザロに向かって言われた。「ラザロ。出て来なさい。」⁴⁴ すると、死んでいたはずのラザロが、葬られた時のように、手にも

足にも体にも長い布を巻き付けたまま、墓の中から出て来た。顔も布で包まれていた。イエスはそこにいる人々に言われた。「ほどいてやって、帰らせなさい。」

イエスを殺す計略

⁴⁵ マリヤの所に来て、イエスがなされたことを見たユダヤ人の指導者たちは、イエスを信じるようになった。⁴⁶ しかし、そのうちの何人かの者は、パリサイ派の人たちの所へ行って、イエスのなされたことを告げた。

⁴⁷ そこで、祭司長たちとパリサイ派の人たちは、議会を召集して、こう言った。「あの男が、あんなに沢山の奇蹟を行なっているというのに、われわれは何をしているのだ。」⁴⁸ このまま放っておいたら、みんなが信じてしまうぞ。それでもいいのか。もしそうになったら、ローマの軍隊がやって来て、われわれを殺し、土地もすっかり取られてしまうようになる。」⁴⁹ しかし、議員の一人で、その年の大祭司であったカヤパはこう言った。「あなたがたは何も分っておられませんな。」⁵⁰ 一人の人がほかの人に代って死ぬことによって、国民全体が減びないで済む方が得策だとはお思いになりませんか。」⁵¹ イエスが国民全体に代って死ぬというこの預言は、カヤパが語ったものであったが、それは彼が意識して言ったものではなかった。しかし、創造主の深い御心がそこに表れていた。⁵² それは、イエスがユダヤ人のためにだけ死ぬのではなく、全世界に散らされている創造主の子たちのためにも死に、ついに彼らを一つに集めるという預言であった。⁵³ こうして、この日からユダヤ人の指導者たちは、イエスを殺す計画を立てた。

エフライムに退く

⁵⁴ そのため、イエスはもはや公然とユダヤ人たちの間を歩くことができなくなり、そこから荒野に近い地方のエフライムという町に入り、弟子たちと共にそこに滞在された。⁵⁵ ユダヤ人の過越の祭りが間近になったので、多くの人々が

田舎からエルサレムに出て来て、身を清めていた。⁵⁶ ユダヤ人の指導者たちはイエスを捜し、主の宮の庭に立って、互いに言った。「どうだろう。あのイエスはこの度の過越の祭にここへ来るだろうか。」⁵⁷ 祭司長たちやパリサイ派の人たちはイエスを捕えるために、イエスの居所を知っている者は届け出るようにと命令を出していた。

ベタニヤでのマリヤの香油注ぎ

12 ¹イエスは過越の祭の六日前、つまり十字架上で犠牲の死を遂げられる前の週の金曜日にベタニヤの村に来られた。この村は、前にイエスがラザロを生き返らせた所である。² イエスのために夕食が用意され、マルタは給仕をしていた。ラザロはイエスと一緒に食卓に着いている人々の中にいた。³ マリヤは、非常に高価で、純粋なナルドの香油三百グラムほどを持って来て、イエスの御足に塗り、それを自分の髪の毛でふいた。すると、香油の香りが家の中に一杯になった。⁴ ところが、弟子の一人で、イエスを裏切ろうとしていたイスカリオテのユダはこう言った。⁵ 「どうしてこの香油を売って、沢山のお金にし、それを貧乏な人に施して上げなかったのか。」⁶ 彼がこう言ったのは、貧乏な人たちのことを心に掛けていたからではなく、彼はイエスの弟子団の会計係をしており、その中から自分のために使い込んでいたのである。⁷ イエスは、言われた。「この婦人のするままにしておきなさい。マリヤは、どれだけ自覚をしていたかは分かりませんが、わたしの葬りの用意をしてくれたのです。」⁸ あなたがたはこれから貧乏な人たちと一緒にいます。しかし、わたしの最後は、もうすぐに来ようとしています。」

ラザロを殺す計略

⁹ イエスがベタニヤに来られたことを知ると、多くのユダヤ人がエルサレムからやって来た。それは、イエスに会うためだけではなく、イエスによって生き返らせていただいたラザロ

を見るためでもあった。¹⁰ そこで、祭司長たちはラザロを殺してしまおうと相談した。¹¹ それは、多くのユダヤ人が、ラザロのことでユダヤ教から離れ、イエスを救い主と信じるようになったからである。

エルサレムへの勝利の入城

¹² その翌日、過越の祭に来ていた大勢の人々は、イエスがエルサレムに来られることを聞いて、¹³ しゅろの枝を手に取り、迎えに出て、大声で言った。

「万歳。

主のお名前によって来られる方に、祝福があるように。

イスラエルの王、救い主イエス様に、祝福があるように。」

¹⁴ イエスは、ろばの子を見付けて、それに乗られた。それは、旧約聖書のゼカリヤの預言に語られている通りである。

¹⁵ 「エルサレムの人たち。恐れるな。

さあ、あなたの王がおいでになる。

ろばの子に乗っておいでになる。」

¹⁶ 初めのうち、弟子たちには、これが旧約聖書の預言の成就であるということが分らなかった。しかし、イエスが復活されてからは、旧約聖書の多くの預言が皆イエスについて書かれたものであって、イエスによって成就したことを悟るようになった。¹⁷ イエスがラザロを生き返らせた時、それを見ていた大勢の人々は、そのことをみんなに話していた。¹⁸ 多くの人たちがイエスを出迎えたのは、イエスがこのような驚くべき奇蹟を行なわれたことを聞いていたからである。¹⁹ そこで、パリサイ派の人たちは互いに言った。「何もかも駄目だ。世は挙げて、あの男に付いて行ってしまおうじゃないか。」

ギリシャ人たちの訪問と一粒の麦の教え

²⁰ さて、過越の祭を祝うために、エルサレムに上って来た人々の中に、何人かのギリシャ人がいた。²¹ 彼らは、ガリラヤのベツサイダの人

であるピリポの所に来て、頼んで言った。「先生、イエス様にお目に掛りたいのですが。」²²ピリポはアンデレに話し、アンデレとピリポは、イエスの所へ行って、そのことを伝えた。²³すると、イエスは彼らにこう語られた。「わたしが天の御国へ帰る時が来ました。²⁴よく言っておきますが、確かに一粒の麦は地に落ちて死ななければ、一粒のままです。しかし、もし死ねば、多くの実を結ぶようになります。わたしも死なずに生きていれば、わたし一人だけです。しかし、もし死ねば、それによって多くの人に新しい命を与えることができます。²⁵だれでも、自己保身的な人は、かえって大事な命を失ってしまう結果になり、この世でわたしのために、喜んで自己犠牲を払う人は、永遠の祝福を頂くことができます。²⁶わたしの弟子になりたいのなら、わたしに従って来なさい。わたしに仕えたいと思えば、いつもわたしと一緒にいることが必要です。わたしに仕える人は、天のお父様が祝福してくださいませ。

²⁷今わたしの心は騒いでいる。何と言ったらよいのか。」「天のお父様。間もなくそれに立ち向わなければならない十字架の苦しみから、わたしを救い出してください。しかし、このためにこそ、わたしはこの世に来ました。²⁸天のお父様。どうかあなたがあがめられますように。」その時、天から御声があった。「わたしはすでに栄光を現した。また、もう一度現そう。」²⁹そこにいた群衆は、その声を聞くと、雷の音だと思った。ほかの人たちは、御使いがイエスに語ったのだと思った。³⁰イエスは答えて言われた。「この天からの御声は、わたしのためではなく、あなたがたのためです。³¹この世の裁かれる時が来たのです。今この世を支配している悪魔は追い出されます。³²わたしが十字架上で死に、天に上げられると、あなたがた信じる人々を皆、わたしのもとに引き寄せます。」³³イエスのご自分がどのような死に方をなさるのかを示して、このように言われたのである。³⁴すると、群衆はイエスにこう言った。「私たちは、旧約聖書の中で、救い主(キリスト)は

いつまでも生きておられると記されていると理解しています。それなのに、どうしてあなたは救い主が十字架上で死ぬなどとおっしゃるのですか。その救い主というのは、だれのことですか。」³⁵イエスは彼らに答えられた。「光であるわたしは、まだしばらくの間、あなたがたと一緒にいます。わたしがまだこの世にいる間に信じて、光の中を歩いていけるようにしなさい。闇になったら、どうしてよいか分からなくなります。³⁶世の光であるわたしがこの世にいる間、わたしを信じて、光の子供となりなさい。」

ユダヤ人たちの不信仰

イエスはこれらのことを話されてから、立ち去って、彼らから身を隠された。³⁷イエスは、沢山の奇蹟を彼らの目の前で示されたのに、彼らはイエスを救い主とは信じなかった。³⁸それは、主が預言者イザヤを通してお語りになったことの成就するためであった。すなわち、「主よ。だれが私たちの語ったことを信じましたか。主の力強い奇蹟の御業がなされても、だれが信じたのでしょうか。」³⁹彼らが信じるることのできなかったのは、イザヤを通して、主がまた次のように語っておられたからでもある。⁴⁰「主は彼らの心の目を盲目にされ、彼らの心をかたくなにされた。そこで、彼らは目で見ることができず、心で悟ることができず、悔い改めることも、いやされることもないのである。」⁴¹イザヤが預言した時、このようにイエスに言及していたのは、救い主の栄光を幻として見ていたからである。⁴²しかしながら、それでもユダヤ人の中でイエスを信じる者たちが沢山いた。ただ彼らは、パリサイ派の人たちをはばかって、公言しなかった。それは、会堂から追放されるのを恐れたためである。⁴³彼らは、創造主からの栄誉よりも、人の栄誉を重んじたのである。

イエスの語った真理が裁く

⁴⁴また、イエスは群衆に向かって、大声で言われた。「わたしを信じる人は、実はわたしをこの世にお遣わしになった天のお父様を信じるの

です。⁴⁵ また、わたしを見ている人は、実はわたしをこの世にお遣わしになった天のお父様を見ているのです。⁴⁶ わたしは光としてこの世に来ました。それは、わたしを信じる人が、闇の中に留まることのないためです。⁴⁷ たといわたしの言うことを聞いて、それを守らない人があっても、わたしはその人を裁きません。わたしがこの世に来たのは、世の人々を裁くためではなく、救うためです。⁴⁸ わたしを受け入れず、わたしの語ったことを退ける者は、だれでもこの世の終りの裁きの日に裁かれます。それは、わたしが語った真理が裁きます。⁴⁹ というのは、わたしは自分勝手に語ったわけではなく、わたしをこの世にお遣わしになった天のお父様がわたしに語るべきことをお示しになったに過ぎないからです。⁵⁰ 天のお父様の御教えは、人を救いに導きます。わたしは、その天のお父様の言われたことを、そのまま話しているのです。」

弟子たちの足を洗うイエス

13 ¹ 過越の祭の始まる日の夕方、イエスはこの世を去って、天のお父様のみもとに帰って行く最後の晩が来たことを知られ、この世にいる弟子たちを本当に愛され、愛しておられることを一つのことで示された。² 夕食の時のことであった。悪魔はすでにシモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを裏切る思いを抱かせていたが、³ イエスは、天のお父様が万物をご自分の手にお与えになったこと、人類の救いのためにご自分が十字架上で犠牲の死を遂げられること、ご自分がまた天のお父様のみもとへ帰って行くこと、そして、それらのことが人類を愛する創造主の愛にほかならないことをご存じであった。⁴ そこで、夕食の席から立ち上がり、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰に巻き、⁵ それから水をたらいに入れ、弟子たちの足を洗い、腰に巻いた手ぬぐいで、ふき始められた。⁶ 一人一人の弟子の足を洗われてから、シモン・ペテロの所に来られると、ペテロはイエスに言った。「主イエス様。先生が私の足を洗ってくださるのですか。とんでも

ありません。これは逆ではありませんか。私が先生の足を洗って差し上げなければなりません。」⁷ イエスは答えて言われた。「わたしのしていることを、今は分らなくても、後で分るようになります。」⁸ ペテロはイエスに言った。「先生。私の足など、どうか先生が洗ったりならさないでください。」ペテロは恐縮して自分の足を引っ込めた。すると、イエスは言われた。「もしわたしがあなたの足を洗わないなら、あなたはわたしと何の関係も無くなってしまいます。」⁹ シモン・ペテロはあわてて言った。「主イエス様。それでは足だけでなく、手も頭もみんな洗ってください。」¹⁰ イエスは彼にこう説明された。「一度、体全体を洗った人は、もう全身清いのです。でも外を歩いて来ると、足だけは汚れますから、足だけは洗わなければなりません。しかし、この中にいる人が皆、清いとは言えません。」¹¹ イエスはご自分を裏切る者がその中にいることをご存じであった。そこで、「皆が清いわけではない」と言われたのである。

¹² イエスは彼らの足を洗い終り、上着を着けて、再び元の席に戻り、彼らに言われた。「わたしが今したことが分りますか。」¹³ あなたがたは、わたしを先生とか、主と呼んでいます。確かにわたしはその通りです。¹⁴ このように、主であり先生であるわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた、互いに足を洗い合うべきです。¹⁵ わたしがあなたがたにした通りに、あなたがたもするために、模範を示しました。¹⁶ よく言っておきますが、確かに、しもべはその主人に勝るものではなく、遣わされた者は遣わした者に勝るものではありません。¹⁷ これらのことが分っているのですから、それを行なうなら、あなたがたは祝福されます。¹⁸ わたしがこう言っているのは、あなたがた全部についてではありません。あなたがたの中には、わたしを裏切る者が一人います。それは、旧約聖書の詩篇に、『わたしと一緒に食事をしている者の一人が、わたしを裏切った』と預言されている通りです。今その御言葉が成就されようとしています。¹⁹ わたしは、そのことが起

る前に、今あなたがたに言っておきます。そのことが起った時、わたしを信じるためです。²⁰よく言っておきますが、確かに、わたしが遣わす人を受け入れる人は、わたしを受け入れるのです。そして、わたしを受け入れる人は、わたしをこの世に遣わしてくださった天のお父様を受け入れるのです。」

裏切る者への警告

²¹ イエスはこれらのことをお話しになられると、ひどく心の騒ぐのを覚えられ、こう打ち明けられた。「よく言っておきますが、わたしが特別に選んだ十二使徒であるあなたがたのうちの一人が、わたしを裏切ります。」²² 十二弟子は、だれのことを言われたのか計りかね、互いに顔を見合せた。²³ イエスが特に愛しておられた弟子の一人が、イエスの右側で食事の席に着いていた。当時、食事をする時は、体を横にし、上体を左ひじで支えていたので、この弟子はイエスに話をする時、イエスの御胸に寄り掛るような格好になった。²⁴ そこで、シモン・ペテロは彼に合図をして言った。「だれのことを言っておられるのか、知らせてくれ。」²⁵ その弟子は、イエスの御胸に寄り掛るようにして尋ねた。「主イエス様。それはだれのことですか。」²⁶ イエスは答えられた。「わたしは、あなたがたのだれに対しても、お客にするようにパン切れを浸してそれを上げていますが、このあなたがたの中にその人がいるのです。」それから、イエスはパン切れを浸して、それをシモンの子イスカリオテのユダにも与えた。²⁷ するとその時、悪魔がユダの心に入った。イエスは彼に言われた。「あなたがしようとしていることを、今すぐしたらよいでしょう。」²⁸ そこにいたほかの弟子たちには、イエスがユダになぜこう言われたのか、分らなかった。²⁹ ユダがイエスの弟子団の会計係をしていたところから、イエスがユダに、「祭のために必要な物を買え」と言われたのか、もしくは貧乏な人たちに何か施しをするように言われたのだと思った。³⁰ ユダはパン切れをもらうと、それをほうばり、すぐ外へ出て行った。

日はすでにとつぷりと暮れていた。

新しい戒め

³¹ ユダが出て行くと、イエスは弟子たちに言われた。「いよいよ時が来ました。天のお父様は、わたしの身の上にかかることによって、ご栄光をお受けになります。³² また、天のお父様のご栄光がわたしの上にも輝くでしょう。もう間もなく、そうなります。³³ しかし、もう少しの間、わたしはあなたがたと一緒にいます。それから、わたしはあなたがたから離れて、天のお父様のみもとへ帰ります。その時、あなたがたはわたしを捜しても見付けることはできません。もうこの地上にはいないからです。前にユダヤ人の指導者たちにそのことを言ったことがあります。『わたしの行く所へ、あなたがたはすぐに来ることはできないのです。』³⁴ 今わたしはあなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したと同じように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。³⁵ あなたがたが互いに愛し合うなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、この世の人々は知るようになります。』

ペテロの失敗の予告

³⁶ すると、シモン・ペテロはイエスに言った。「主イエス様。どこへいらっしゃるのでですか。」イエスは答えられた。「あなたは、わたしの行く所へ今は付いて来ることができません。しかし後になれば、それができます。」³⁷ ペテロはイエスに尋ねた。「主イエス様。どうして今付いて行くことができないのですか。私はあなたのためなら、命も惜しくはありません。」³⁸ イエスは答えられた。「わたしのために命も惜しくはないと言うのですか。しかし、よく言っておきますが、明日の朝、鶏が鳴く前に、あなたはわたしを三度知らないと言って、吞みます。」

わたしをほかにして天のお父様の みもとへ行くことはできません

14¹ 「あなたがたはどんなことがあっても、心を騒がせてはなりません。創造主を信じ、また、わたしを信じることです。²天のお父様の所には、あなたがたのいる場所が沢山あります。もし無かったら、あなたがたに言っておいたはずで、わたしが天に帰るのは、あなたがたのために、場所を用意しに行くのです。³わたしが行って、場所の用意ができたなら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えましょう。わたしのいる所に、あなたがたもいるようにするためです。⁴わたしがどこへ行くか、その道はあなたがたに分っていますね。」⁵すると、トマスはイエスに言った。「主イエス様。どこへいらっしゃるのか、分かりません。どうしてその道が分るでしょう。」⁶イエスは彼に言われた。「わたし自身が道です。また、真理それ自体です。また、命そのものです。ですから、天のお父様のみもとへ行こうと思うなら、わたしをほかにして、行くことはできません。⁷あなたがたが、もしわたしを本当に知っていたなら、天のお父様も知っていたはずで、そして確かに、あなたがたはわたしを知り、また信じているのですから、天のお父様を知っているはずで、わたしを見ているあなたがたは、天のお父様をも見たのです。」⁸ピリポはイエスに言った。「主イエス様。私たちはまだ天のお父様を見ていません。どうか直接、見ることができるように、今示してください。そうすれば満足です。」⁹イエスは彼に言われた。「こんなに長い間あなたがたと一緒にいるのに、あなたは、わたしを知らなかったのですか。わたしを見た人は、天のお父様を見たのです。それなのに、どうして、『直接見るができるように、示してください』などと言うのですか。¹⁰わたしが天のお父様のうちにおり、天のお父様がまたわたしのうちにおられることを、あなたは信じないのですか。わたしがあなたがたに話している言葉は、自分勝手に話しているのではあり

ません。わたしのうちにおられる天のお父様が、わたしを使って話しておられるのです。また、天のお父様は、わたしによって、働きをしておられます。¹¹わたしが天のお父様のうちにおり、また、天のお父様がわたしのうちにおられることを信じることです。さもなければ、わたしが行なった奇蹟によって、そのことを信じることです。¹²よく言っておきますが、確かに、わたしを信じる人は、わたしが行なったのと同じように、驚くべきことを行なうことができます。いや、それ以上のことができるのです。それは、わたしが天のお父様のみもとに帰って行くからです。¹³わたしの名前によって求めることは、何でもかなえてあげましょう。わたしがそうすることによって、天のお父様が栄光をお受けになるためです。¹⁴どんな事でも、わたしの名前によってわたしに求めるなら、わたしはそれをかなえてあげます。

聖霊を送ってくださるという約束

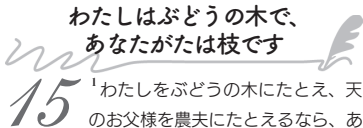
¹⁵もしあなたがたがわたしを愛するなら、わたしの言うことを守るはずで、¹⁶わたしは天のお父様をお願いして、わたしとは別に助け主を送っていただきます。その助け主は、わたしがこの世を去った後も、ずっとあなたがたと共におられるようになります。¹⁷その助け主とは、聖霊のことであり、あなたがたを真理に導いてくださいます。悪魔の支配しているこの世は、その方を受け入れることはできません。この世は、その方を知らないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方は、あなたがたと共に住み、あなたがたのうちにおられるからです。¹⁸わたしがこの世を去っても、決してあなたがたを見捨てるわけではありません。また、あなたがたの所へ帰って来るのです。¹⁹もうしばらくすると、この世からわたしはなくなり、しかし、わたしはいつでもあなたがたと一緒にいます。わたしは復活して生き続けますし、わたしを信じるあなたがたも、わたしの命にあずかることができます。²⁰わたしが復活する時、わたしが天のお父様のうちにお

り、あなたがたがわたしのうちにおり、わたしがあなたがたのうちにいることが、あなたがたに分ります。²¹ わたしの言うことを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人は天のお父様に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現します。』²² イスカリオテでない方のユダが、イエスに言った。「主イエス様。先生はどうして私たち弟子にだけはご自分を現してくださいるのに、この世には現されないのですか。」²³ イエスは彼に言われた。「だれでもわたしを愛する人は、わたしの言うことを守ります。そうすれば、天のお父様はその人を愛してくださり、天のお父様もわたしもその人の所に来て、その人の心の中に住みます。²⁴ しかし、わたしを愛さない人は、わたしの言うことを守りません。わたしが語っている言葉は、わたしが一人で言っている言葉ではなく、わたしをこの世に遣わしてくださった天のお父様がわたしに示してくださった言葉です。

²⁵ 今言ったことは、あなたがたに以前話しました。²⁶ しかし、天のお父様がわたしの名前によってお遣わくださる聖霊の助け主は、あなたがたにわたしが教えたすべてのことを思い起させてくださいます。²⁷ わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしがあなたがたと与える平安は、この世の与えるような平安ではありません。ですから、あわててはいけません。また、恐れてもいけません。²⁸ 『わたしはこの世を去ってから、また、あなたがたの所へ帰って来る』と話しましたが、もしあなたがたがわたしを本当に愛しているなら、わたしが天のお父様のみもとに行くのを喜ぶはずで、天のお父様こそ、何ものにも勝る偉大なお方だからです。²⁹ わたしは、そのことが起る前に、あなたがたに話しました。そのことが起った時に、あなたがたがわたしを信じるためです。³⁰ わたしはもう余り多くのことを言うことができません。この世の支配者である悪魔がわたしを捕えようとして来るからです。しかし、悪魔はわたしに対して何もすることができません。何の力もありません。³¹ しかし、天のお父様がわたしに命じ

ておられる通りのことを、わたしは行ないます。それは、わたしが天のお父様を愛していることを、この世が知るためです。立ち上がりましょう。さあ、ここから出て行くのです。

わたしはぶどうの木で、 あなたがたは枝です



15 ¹ わたしをぶどうの木にたとえ、天のお父様を農夫にたとえるなら、あなたがた弟子たちは、ぶどうの枝にたとえることができます。² わたしの枝で実を結ばないものは、皆、天のお父様が、それを取り除き、実を結ぶものは、皆もっと多くの実を結ぶために、実を結ばない枝を切り取ってしまわれます。³ あなたがたは、わたしがあなたがたに話した言葉によって、もう切り取りが済み、清くされています。⁴ わたしにつながっていないさい。わたしもあなたがたとつながっています。枝がぶどうの木につながっていないければ、枝だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながっていないければ、実を結ぶことができません。⁵ わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。だれでもわたしにつながっており、わたしもその人とつながっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れたら、あなたがたは何一つすることはできません。⁶ だれであろうと、わたしにつながっていない人は、枯れ枝のように、投げ捨てられて、薪として燃やされてしまいます。⁷ あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたのうちに留まっているなら、どんなものでも、欲しいものを求めなさい。そうすれば与えられます。⁸ あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となるなら、天のお父様はそのことによって栄光をお受けになります。⁹ 天のお父様がわたしを愛してくださったように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中で生きなさい。¹⁰ わたしの言うことを守るなら、あなたがたはわたしの愛の中で生きることになります。それは、わたしが天のお父様の言われることを守って、その愛の中に生きているのと

同じです。¹¹ わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあって、あなたがたの喜びが満ちあふれるためです。¹² わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。¹³ 人がその友のために命を捨てるほど、大きな愛はありません。¹⁴ わたしがあなたがたに言ったことを守るなら、あなたがたはわたしの友です。¹⁵ わたしは、もうあなたがたをしもべとは思っていません。しもべは主人のしていることを知らないからです。わたしはあなたがたを友だと思っています。天のお父様から聞いたことを全部あなたがたに話したではありませんか。¹⁶ あなたがたは、自分でわたしを選び、わたしを信じたのだと思っているかもしれませんが、そうではありません。むしろ、わたしがまずあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが出て行って実を結び、その実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名前によって天のお父様に求めるものは何でも、天のお父様が与えてくださるためです。¹⁷ あなたがたが互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。

迫害の予告

¹⁸ というのは、この世はあなたがたを憎むからです。しかし、そのような時、彼らはまずこのわたしを憎んでいるのだということを知ることです。¹⁹ もしあなたがたがこの世のものであったとしたら、この世はあなたがたを憎むはずがありません。かえって愛したはずです。しかし、確かにあなたがたはこの世のものではなく、わたしがこの世から選び出したのです。それで、この世はあなたがたを憎みます。²⁰ 『しもべが受ける待遇はその主人が受ける待遇に準ずるものだ』と、以前あなたがたに言っておいたことを思い出さない。もしこの世の人々が主人であるわたしを迫害したなら、そのしもべであるあなたがたをも迫害します。もし彼らがわたしの言うことを守ったなら、あなたがたの語ることに聞き従うでしょう。²¹ しかし彼ら

は、あなたがたがわたしに従っていることで、憎んだり、迫害したりします。それは、彼らがわたしをこの世にお遣わしになった天のお父様を知らないからです。²² もしわたしがこの世に来て、彼らにはっきりと語らなかつたら、彼らは罪を犯さないで済んだでしょう。しかし今となつては、もうその罪について弁解の余地はありません。²³ わたしを憎んでいる者は、天のお父様をも憎んでいます。²⁴ もしわたしがほかのだれも行なつたことのないような驚くべき奇蹟を、彼らの間で行なわなかつたとしたら、彼らは罪を犯さないで済んだことでしょう。しかし事実、彼らはわたしをも天のお父様をも知りながら、その上で憎みました。²⁵ これは、『彼らが理由無しにわたしを憎んだ』と、記されている旧約聖書の詩篇の御言葉が成就するためでした。²⁶ わたしが天のお父様のみもとから遣わす助け主であられる真理の聖霊が来られる時、その聖霊はわたしのことをはっきりと教えてくださいます。²⁷ あなたがたも、初めからわたしと一緒にいたのですから、わたしのことをはっきりと語ってくれるでしょう。

16 ¹ わたしがこれらのことを話したのは、これからどんなことが起つても、それによってあなたがたが驚くことのないためです。² あなたがたは自分たちの生きている社会から村八分にされるでしょう。あなたがたを殺す者たちが、そうすることによって、自分は創造主に仕えるのだと思う時が来ます。³ 彼らがそういうことをするのは、天のお父様をも、わたしをも知らないからです。⁴ しかし、わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、その時が来れば、わたしが彼らについて言ったことを、思い出すことができるためです。それでは、どうして今になってこのことを話すのかと言えば、今まではあなたがたと一緒にいましたが、今わたしはあなたがたの所から去って行くからです。

聖霊の働き

⁵ わたしは、今わたしをこの世にお遣わしに

なった天のお父様のみもとへ行こうとしています。あなたがたの中にはわたしがどこへ行こうとしているのか尋ねる者はいませんが、⁶わたしが話したことで、悲しみに満たされていますね。⁷しかし、わたしは本当のことを言います。わたしがこの世を去って行くことは良いことです。わたしが天に帰らなければ、助け主の聖霊はあなたがたの所へ来ません。わたしが天に帰れば、わたしは聖霊をあなたがたの所に送ります。⁸その方が来られると、三つのことを認めさせていただきます。それは、罪と正しさと裁きについてです。⁹罪についてというのは、彼らが、自己中心の生活をして、あくまでもわたしに逆し、わたしを信じないことの根元が罪だということです。¹⁰正しさについてというのは、わたしの言葉と働きの正しさのことで、それは、わたしが復活して、あなたがたの目から見えなくなり、天のお父様のみもとに帰ることによって証明されるということです。¹¹裁きについてというのは、この世を支配している悪魔がすでに裁かれているということです。¹²わたしは、まだまだあなたがたに話すことが沢山ありますが、今あなたがたの心は、悲しみのため閉ざされていて、わたしの言葉を聞くのに耐えられない状態ではありません。¹³しかし、真理の聖霊が来られると、あなたがたにすべてのことを明らかにしてくださり、真理に導いてくださいます。聖霊はご自分の考えを語られるのではなく、天のお父様から聞いたままを語られ、やがて起ろうとしていることを、あなたがたに示されます。¹⁴聖霊はわたしの栄光を現すことを任務としておられます。¹⁵天のお父様の栄光は、またわたしの栄光でもあります。ですから、聖霊はわたしの栄光を現すと言ったわけです。

悲しみは喜びに変る

¹⁶もうしばらくすると、わたしはこの世を去って行きますから、わたしを見ることができなくなります。しかしまた確かに、あなたがたはわたしを見るができるようになります。」¹⁷そこで、弟子たちのうちのある者はこ

う言った。「『しばらくすると、あなたがたはわたしを見るができなくなる。しかしまた、わたしを見るができるようになる』とか、『わたしは天のお父様のみもとへ行こうとしている』と主イエス様が言っておられるのは、どういことなのだろう。」¹⁸彼らは、また言った。「『しばらくすると』と、主イエス様が言っておられるのは、どういことなのだろう。私たちには、主イエス様が言っておられることが分らない。」¹⁹イエスは、弟子たちが尋ねたがっていることに気付いて、彼らに言われた。「わたしが話したことについて、知りたいようですね。²⁰よく言っておきますが、確かに、間もなくわたしの身の上にかかることによって、あなたがたは泣き悲しみますが、この世は喜ぶでしょう。あなたがたは悲しみますが、その悲しみもやがて喜びに変わります。²¹それは、ちょうど女の人が子供を産む時と同じで、産みの苦しみを経験しても、後で子供が生れると、その喜びのために苦しみを忘れるようなものです。²²わたしがこの世を去って行けば、確かに悲しむでしょうが、もう一度あなたがたに会う時、きっとあなたがたの心は、喜びで一杯になるでしょう。そして、その喜びをあなたがたから奪い取るのできる者はありません。²³その時には、もう何もわたしに尋ねる必要は無くなります。よく言っておきますが、確かにあなたがたがわたしの名前によって、天のお父様に求めることは何でも、天のお父様が与えてくださいます。²⁴あなたがたは今まで何でもわたしに直接求めればよかったので、わたしの名前によって天のお父様に求めたことはありませんでした。しかし、これからは、わたしの名前によって求めることです。そうすれば必ず与えられます。そして、あなたがたの喜びは満ちあふれるでしょう。

わたしはすでにこの世に勝ったのです

²⁵わたしはこれらのことをなぞめいた言い方で話してきました。しかし、もうそういう必要のない時が来ます。²⁶その時には、あなたがたはわたしの名前によって、天のお父様に求め

ばよいのです。今までは、わたしがあなたがたのために、天のお父様に願ってきましたが、もうそうする必要の無い時が来ます。²⁷天のお父様があなたがたを愛してくださるからです。それは、あなたがたがわたしを愛しているからですし、また、わたしが天のお父様のみもとから来たことを信じたからです。²⁸わたしは天のお父様から出て、この世にきました。ですから、またこの世を去って、天のお父様のみもとへ行くのです。」²⁹弟子たちは言った。「先生は今はっきりとお話しくださって、少しもなぞめいた言い方はなさいませんでした。³⁰先生は何でもすべてのことをご存じで、だれも先生にお尋ねする必要の無いことがよく分りました。これで、私たちは先生が創造主から来られた方だということ信じます。」³¹イエスは答えられた。「あなたがたは今信じていますが、³²もうすぐ激しい試練にさらされる時が来ます。もう来つつあるのです。あなたがたはわたし一人を残して、逃げて行ってしまいます。しかし、わたしは一人なのではありません。いつも天のお父様がわたしと共にいてくださいます。³³わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたが心に平安を持つためです。確かに、あなたがたはこの世にあっては悩みがあります。しかし、勇気を出さない。わたしはすでにこの世に勝ったのです。」

弟子たちのためのイエスの祈り

17 ¹イエスはこれらのことを語られると、天を仰いで、次のように祈られた。「天のお父様。いよいよ時が参りました。わたしはお父様の栄光を現しますから、どうぞわたしの栄光も現してください。²それは、お父様がわたしに下さった人々を救うため、すべての人を支配する権威をわたしにお与えになったからです。³その救いを得る道は、生きておられる唯一人の本当の創造主であるあなたと、あなたがこの世に遣わされたイエス・キリストを親しく知ることで。⁴わたしは、わたしにさせるために、あなたがお授けになった働きを

成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。

⁵お父様。今は、あなたのみそばでわたしを栄光で輝かせてください。この世が造られる前に、みそばで一緒に持っていたあの栄光で輝かせてください。⁶わたしは、あなたがこの世から選び出してわたしにお与えくださった人々に、あなたのことを語りました。彼らはあなたのもので、あなたがわたしに下さったので、彼らはあなたの御言葉を守りました。⁷今、彼らは、わたしの行なった奇蹟も教えも、皆あなたからのものであることを知っています。⁸それは、わたしがあなたから頂いた御言葉を、そのまま彼らに示したからです。彼らはそれを受け入れ、わたしが確かにあなたから来た者であることを本当に知り、また、わたしがあなたから遣わされた者であることを信じました。⁹わたしは彼らのためにお願します。わたしが彼らのためにお願するのは、この世のためではなく、あなたがわたしにお与えくださった人々のためです。彼らはあなたのもだからです。¹⁰わたしのものは皆あなたのも、あなたのもはわたしのものです。そして、わたしは彼らによって栄光を受けました。

¹¹わたしは間もなくこの世から去ってあなたのみもとに行きますが、彼らはまだこの世に残っています。聖いお父様。どうぞあなたが彼らを守ってください。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つになり、だれ一人として落ちていくことのないためです。¹²わたしが彼らと一緒にいた時、わたしは彼らを御国の民として守ってきました。彼らのうち、だれも滅びませんでした。ただ滅びの子だけが、旧約聖書の預言通り滅びただけでした。¹³わたしは、今あなたのみもとに参ります。そして、この世にいる間にこのようなことを彼らに語ったのは、わたしの喜びが彼らのうちに満ちあふれるためです。¹⁴わたしは彼らにあなたの戒めを与えました。しかし、この世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものではないように、彼らもこの世のものではないからです。¹⁵わたしがあなたにお願するのは、彼らをこの世から取り

去ってくださるようというのではなく、彼らを悪魔の力から守ってくださるようということです。¹⁶ わたしがこの世のものではないように、彼らもこの世のものではありません。¹⁷ どうか、あなたの真理の御言葉を彼らに教えて、彼らをあなたのものとしてください。¹⁸ あなたがわたしをこの世に遣わされたように、わたしも彼らをこの世に遣わしました。¹⁹ 彼らがあなたの真理の御言葉によってあなたのものとされるために、どうぞわたし自身、あなたの御心に従い、すべてをささげさせてください。²⁰ わたしは今信じている人々のためだけでなく、これから彼らの伝道によって信じる人々のためにもお願いいたします。²¹ 天のお父様。それは、あなたがわたしのうちにいてくださり、わたしがあなたのうちにいるように、彼らもまたわたしのうちにいて、一つ心、一つ思いとなるためです。そのことによって、あなたがわたしをこの世に遣わされたことを、この世の人々が信じるためです。²² わたしは、あなたから頂いた栄光を彼らにも与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つとなるためです。²³ わたしが彼らのうちにおり、あなたがわたしのうちにおられるのは、彼らが完全に一つとなるためであり、また、あなたがわたしをこの世に遣わされたこと、わたしを愛してくださっているように、彼らを愛していっしょなということを、この世の人々が知るためです。²⁴ 天のお父様。あなたがわたしにお与えくださった人々が、いつもわたしのいる所に一緒にいるようにしてください。天地が造られる前から、わたしを愛して、わたしにお与えくださった栄光を、彼らがいずれも見ることができるようしてください。²⁵ 天のお父様。この世はあなたを知りません。しかし、わたしはあなたを知っています。また、彼らも、わたしがあなたから遣わされたことを知っています。²⁶ わたしは彼らにあなたを示しました。また、これからもそうします。それは、あなたがわたしを愛してくださったその愛が、彼らのうちにあるためです、また、わたしも彼らのうちにいるためです。」

イエスの逮捕

18 ¹ イエスはこれらのことを祈り終えられると、弟子たちと一緒に、ケデロンの小川を渡って、その向いにあるオリーブ山へ行かれた。その中腹には園があって、イエスは弟子たちと一緒にそこへ入られた。² イエスを裏切ったユダも、その場所をよく知っていた。イエスは弟子たちと一緒に、よくそこで集まったことがあったからである。³ さて、ユダは、数百人に上るローマの兵隊と、祭司長やパリサイ派の人たちから送られて来た役人たちを先導して、たいまつやあかりや武器を持ちながら、そこへやって来た。⁴ イエスはご自分の身に起ろうとしていることをすべて知っておられたので、出て来て、「だれを捜していますか」と言われた。⁵ 彼らが、「ナザレのイエスだ」と答えると、イエスは、「わたしがそうです」と言われた。イエスを裏切ったユダも、彼らと一緒に立っていた。⁶ イエスが彼らに、「わたしがそうです」と言われた時、彼らはその権威に圧倒されて、その場に尻もちを突いてしまった。⁷ そこで、またイエスが彼らに、「だれを捜していますか」と尋ねられると、「ナザレのイエスだ」と言った。⁸ イエスは言われた。「わたしがそうだと行ったではありませんか。わたしを捜しているのなら、このわたしと一緒にいる人たちは自由にしてやってください。」⁹ それは、「あなたがわたしにお与えくださった人々の中で、だれ一人として、落ちていくことのないためです」と、イエスが祈られた言葉が実現するためであった。¹⁰ シモン・ペテロは刀を持っていたが、それを抜き、大祭司のしもべマルコスの右の耳を切り落としてしまった。¹¹ そこで、イエスはペテロに言われた。「刀をさやに納めなさい。天のお父様がわたしにせよと命じておられる十字架への道は、決して避けることはできません。」

大祭司の下に連行される

¹² それから、数百人の兵隊や司令官やユダヤ

人の役人たちは、イエスを捕え、縛り上げて、¹³まずアンナスの所へ連れて行った。彼は前に大祭司であったことがあり、また、この年の大祭司カヤパのしゅうとに当たっていた。¹⁴また、彼は前に、一人の人がほかの人に代って死ぬこととは得策だと言ったことのある人である。

ペテロがイエスを否む

¹⁵シモン・ペテロともう一人の弟子がイエスの後に付いて行った。このもう一人の弟子というのは、大祭司の知り合いであったので、イエスと一緒に大祭司の官邸の中庭に入ることができた。¹⁶しかし、ペテロは外で戸口の所に立っていた。そこで、大祭司の知り合いである、もう一人の弟子が出て来て、門番の女に話して、ペテロを中に入れてやった。¹⁷すると、門番の女がペテロに、「お前さんも、あの男の弟子じゃないの」と言ったので、ペテロは、「いいや、とんでもない」と答えた。¹⁸しもべや役人たちは、まだ寒い時だったので、たき火をして暖まっていた。ペテロも彼らの中に混じり、立ったまま、たき火に当たっていた。

大祭司による尋問

¹⁹大祭司は、イエスに弟子たちのことや、彼らに何を教えたかについて尋ねた。²⁰イエスは答えられた。「わたしはいつも公然と語ってきました。わたしはユダヤ人が集まる会堂や主の宮で教えてきました。隠れて語ったことはありません。²¹ですから、わたしが何を人々に語ったかを知りたいければ、それを聞いた人に尋ねられたらよいでしょう。彼らは聞いているのですから。」²²イエスがこう言われると、そばに立っていた役人の一人が、「大祭司様に向って、そんな言い方をするのか」と言って、イエスを平手でたたいた。²³イエスは答えて言われた。「わたしの言ったことに何か間違ったことでもあれば、何がいけなかったのか、それを言いなさい。そうでないのなら、どうしてわたしをたたいたのですか。」²⁴アンナスは、イエスを縛ったまま、大祭司カヤパの下へ送った。

ペテロがまたイエスを否む

²⁵シモン・ペテロはまだ立ったまま、たき火に当たっていた。すると、そこにいた人たちが彼に言った。「お前さんも、あの男の弟子だね。」ペテロは、「いいや、とんでもない」とあわてて打ち消した。²⁶大祭司のしもべの一人で、ペテロに耳を切り落されたマルコスの親類に当る者が言った。「お前さんが園であの男と一緒にいた所を、私は、ちゃんと見ているんだよ。」²⁷ペテロはまたそれを打ち消した。するとその時、すぐ鶏が鳴いた。

ピラトによる尋問

²⁸カヤパの下での裁きは夜明けごろ終り、すぐイエスはローマの総督の官邸に連れて行かれた。イエスを引き立てて来たユダヤ人たちは、異邦人の官邸に入らなかった。もし入れればユダヤ教の規則によって汚れた者となり、過越の食事にあずかることができなくなってしまうからである。²⁹そこで、総督ピラトは、彼らの所に出て来て尋ねた。「その方たちは、この男についてどのような訴状を持っているのか。」³⁰彼らはピラトに答えた。「もしこの男が何も悪い事をしていなかったら、どうして訴えたりするのでしょうか。」³¹そこで、ピラトは彼らに言った。「その方たちが持っている律法で裁いたらどうか。」彼らは言った。「私たちには、死刑の執行をする権限がありません。」³²このように、彼らが、イエスを石打ちの刑で殺せないことは、イエスの死が十字架の死であって、そのことは常々イエスが自ら語っておられた通りである。

³³さて、ピラトはもう一度、官邸に入り、イエス呼び出して言った。「その方はユダヤ人の王なのか。」³⁴イエスは答えて言われた。「それは、ご自分のお考えからそうおっしゃるのですか。それとも、ほかのだれかがそう言っているともおっしゃるのですか。」³⁵ピラトは答えた。「余はユダヤ人ではない。その方の同国人や祭司長たちが、その方を引き渡したのだ。その方は何をされたのか。」³⁶イエスは答えて言

われた。「わたしはこの地上の王ではありません。もしこの地上の王であったとしたら、わたしの弟子たちは、わたしをユダヤ人の指導者たちに引き渡さないように戦ったはずです。しかし、わたしの国はこの世のものではありません。」³⁷そこで、ピラトはイエスに言った。「それでは、その方はやはり王なのだな。」イエスは答えて言われた。「確かにわたしは王です。しかし、この地上の王ではありません。わたしはこの世に真理を持って来たのです。ですから、真理を愛する人は、だれでもわたしの弟子です。」³⁸ピラトはイエスに言った。「その真理とは何だ。」

死刑の宣告

彼はこう言ってから、またユダヤ人たちの所へ出て行き、彼らに言った。「余は、この男に罪を認めることはできない。³⁹さて、過越の祭には、その方たちのために、いつも恩赦を与えることにしている。この度は、このユダヤ人の王を釈放したいと思うが、どうか。」⁴⁰すると、彼らは叫んで言った。「そいつではない。バラバの方だ。」このバラバは強盗であった。

19¹そこで、ピラトはイエスを捕え、むちで打たせた。²兵隊たちは、いばらで王冠を編んで、イエスの頭にかぶせ、王の着用するような紫の外套を着せ、³イエスに近寄って来て、「ユダヤ人の王様。万歳」とからかい、その御顔を平手でたたいた。⁴すると、ピラトは出て行って、ユダヤ人たちに言った。「よく聞いておくのだ。余はこの男をその方たちの所へ連れて行くが、それはこの男に何の罪も無いことを、その方たちに知ってもらうためだぞ。」⁵イエスは、いばらの王冠と紫の外套を着けたまま、外へ出て来られた。すると、ピラトは彼らに言った。「ほら、この男だ。」⁶祭司長たちや役人たちは、イエスを見ると、狂わんばかりに叫んで、「十字架に付けろ。十字架に付けろ」と言った。ピラトは彼らに言った。「その方たちが自分の手で十字架に付けたらよからう。余はこの男に何の罪も認めることはできな

い。」⁷彼らは答えた。「私たちの律法では、自分を創造主の子だと言う者は死刑になるんです。」⁸ピラトはこの言葉を聞くと、ますます恐れ、⁹もう一度、官邸に入って、イエスに尋ねた。「その方はどういう素性の者か。」しかし、イエスは何も答えられなかった。¹⁰そこでピラトは言った。「どうして答ええないのか。余は、その方を釈放しようと思えば釈放でき、十字架に付けようと思えばそれもできる。そういう権威を持っているのだ。」¹¹イエスは答えられた。「どんな人でも、天のお父様から頂くのでなければ、わたしに対して何の権威もありません。ですから、このわたしを引き渡した者の罪は、決して小さくありません。」¹²これを聞いて、ピラトはイエスを釈放しようと思った。しかし、ユダヤ人の指導者たちは、狂ったように叫んだ。「もしもその男を釈放したら、皇帝陛下に反逆することになるんだぞ。その男は、自分を王だと言っているんだからな。」¹³ピラトはその言葉を聞いて、イエスを外へ引き出し、裁きの座と呼ばれる所で、裁判の席に着いた。¹⁴それは、過越の祭の中の金曜日の午前六時ごろのことであった。ピラトはユダヤ人たちに言った。「さあ、その方たちの王だぞ。」¹⁵彼らは狂ったように叫んだ。「やっちまえ。十字架に付けろ。」ピラトは彼らに言った。「その方たちの王を、余が十字架に付けてもよいのか。」祭司長たちは答えた。「皇帝陛下以外に、王なんかいない。」¹⁶そこで、ピラトは、その時イエスを十字架に付けるため、彼らに引き渡した。

十字架に付けられる

¹⁷彼らはイエスを引き取った。イエスはご自分で十字架を背負い、「されこうべ」という意味の場所、「ゴルゴタ」に向って行かれた。¹⁸彼らは、そこでイエスを十字架に付けた。イエスと一緒に、ほかの二人の者を、一人はイエスの右に、もう一人はイエスの左に、イエスを真中にして十字架に付けた。¹⁹ピラトは罪状書を書いて、十字架の上に付けた。それには、「ユダヤ人の王ナザレのイエス」と書いてあった。²⁰イ

エスが十字架に付けられた場所は、エルサレムのすぐ外にあったので、多くのユダヤ人たちがこの罪状書を読んだ。それは、ヘブル語とラテン語とギリシャ語で書かれていた。²¹ ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、「ユダヤ人の王」とだけ書かないで、『この男はユダヤ人の王と自称していた』と書いてください』と頼んだが、²² ピラトは、「余がすでに書いた以上、変えるわけにはいかぬ」と答えた。

²³ さて、兵隊たちは、イエスを十字架に付けてから、その上着を取り、四人の兵隊にそれぞれ一つずつ当るように四つに分けた。また下着をも取って見たが、それには縫い目が無く、全部一つにして織ったものであった。²⁴ そこで、彼らは互いに言った。「それは裂かないで、だれのものになるか、くじで決めよう。」それは、旧約聖書の詩篇の、「彼らはわたしの服を分け合い、わたしの下着をくじで決めた」という預言が成就するためであった。²⁵ 兵隊たちがそのようなことをしている間、かたわらには、イエスの母マリヤとその妹、クレオパの妻マリヤとマグダラのマリヤなどが立っていた。²⁶ イエスは、母とそのそばに立っている愛弟子ヨハネをご覧になって、マリヤに向い、「お母様。そこにいるのを、息子とと思ってください」と言われた。²⁷ それから、ヨハネに向って、「この母をよろしく頼みます」と言われた。これは、ただ単に自分の愛弟子に母マリヤの余生を頼んだだけではなく、新しい創造主の家族の中に入れられたということを示すものであった。ヨハネはマリヤを自分の家に引き取った。

イエスの死

²⁸ その後、イエスは、救いの御業が完了したことを知られ、「わたしは渇く」と言われた。これは、旧約聖書の詩篇の御言葉が成就するためであった。²⁹ そこには、酸いぶどう酒が一杯入っている器が置いてあったので、彼らは、麻酔薬である酸いぶどう酒に海綿を浸し、それを棒の先に付けて、イエスの口もとに差し出した。³⁰ イエスは、酸いぶどう酒をなめられると、「救

いの業は完了した」と言われ、頭を垂れて、息を引き取られた。

イエスの死の確認

³¹ ユダヤ人の指導者たちは、その次の日が過越の祭の安息日に当たっていたので、その日に死体を十字架に付けたままにしておかないようにと、足を折って死を早め、十字架の上から死体を下ろすことにした。そして、そのことをピラトに願い出た。³² そこで、ローマの兵隊たちがやって来て、イエスと一緒に十字架に付けた左右の者の足を折った。³³ ところが、イエスの所に来ると、すでに息を引き取っておられたので、その足を折らなかつた。³⁴ しかし、兵隊は念のためにと、イエスの心臓を槍で突き刺した。すると、血と水がどっと流れ出した。³⁵ これは私が目撃したことである。私は真実をあかしている。あなたがたにも信じてもらいたいからである。³⁶ このようなことがあったのは、「彼の骨は一つも砕かれない」という旧約聖書の預言が成就するためである。³⁷ また、旧約聖書の預言者ゼカリヤによって主が語られた、「彼らは自分たちが突き刺した方を見る」という預言が成就するためでもあった。

埋葬

³⁸ その後、ユダヤ人の指導者たちを恐れて、ひそかにイエスの弟子となっていたアリマタヤのヨセフが、イエスの遺体の下げ渡しをピラトに願い出た。ピラトはそれを許したので、彼は来て、イエスの遺体を十字架から取り下ろした。³⁹ また、以前、夜イエスの所へ来たニコデモも、没薬とアロエを混ぜたものを三十キログラムばかり持って来た。⁴⁰ 彼らは、ユダヤ人の埋葬の習慣に従って、イエスの遺体を、香料を塗った垂麻布で巻いた。⁴¹ イエスが十字架に付けられた所には、一つの園があって、そこには、まだだれも葬ったことのない新しい墓があった。⁴² その翌日はユダヤ人の安息日であったので、墓に近いということもあって、彼らはそこにイエスを葬った。

復活

20¹さて、週の初めの日、つまり日曜日の早朝まだ暗いうちに、マグダラのマリヤはイエスを葬った墓にやって来た。すると、墓の入口に戸のように置かれてある石がころがされていた。²そこで、走って帰り、シモン・ペテロとヨハネの所へ行った。「だけれど、主イエス様を墓からどこかへ持って行ってしまいました。どこにも無いのです。」³そこで、ペテロとヨハネは、墓へ向った。⁴二人は一緒に走って行ったのに、ヨハネの方がペテロよりも先に墓へ着いた。⁵そして、かがむようにして墓の中をのぞいてみたが、亜麻布しか見えなかった。墓の中には入らず、なおも見ていると、⁶後から来たペテロが墓の中に入り、見ると、亜麻布があるだけであった。⁷イエスの頭に巻かれていた布は、亜麻布のそばには無く、少し離れた所に巻かれたままになっていた。⁸その時、ヨハネも後から墓の中に入って来て、その様子を見、イエスの復活されたことを信じた。⁹その時まで、彼らは、イエスが死人の中から復活されることについて記している旧約聖書を、まだよく理解していなかったのである。¹⁰それから、この二人の弟子たちはまた家に帰って行った。

マグダラのマリヤへの顕現

¹¹しかし、マグダラのマリヤは、外の所に立って泣いていた。そして、泣きながら、かがむようにして墓の中をのぞき込んだ。¹²すると、白い服を着た二人の御使いが、イエスの御体が置かれていた場所に、一人は頭の方に、もう一人は足の方に、座っているのが見えた。¹³すると、御使いたちは、マリヤに言った。「どうして泣いているのですか。」彼女は言った。「だけれど、主イエス様をどこかへ持って行ってしまいました。どこにも見当りません。」¹⁴こう言って、彼女は後ろを振り向いた。すると、そこにイエスが立っておられた。しかし、彼女には、それがイエスであることが分らなかった。

¹⁵イエスはマリヤに言われた。「どうして泣いているのですか。だれを捜しているのですか。」彼女は、そう言われるのが園の管理人だと思って、こう言った。「もしあなたがあの方をどこかへ移したのであれば、どこへ移したのかおっしゃってください。私が引き取ります。」¹⁶イエスはマリヤに言われた。「マリヤ。」彼女は振り向いて、イエスだと分ると、思わず、「主よ」と言った。¹⁷イエスはマリヤに言われた。「わたしに触ってはいけません。わたしはまだ天のお父様の所へ昇っていません。弟子たちの所へ行って、こう伝えなさい。『わたしは今、天のお父様の所へ昇ります。今こそ、天のお父様は、わたしにとっても、あなたがたにとっても、文字通りのお父様なのですよ。』」¹⁸マグダラのマリヤは、弟子たちの所へ行って、「私は、復活したイエス様にお会いしました」と言った。それから、主が彼女に話されたことを語った。

弟子たちへの顕現

¹⁹その日、つまり主イエスが復活された日曜日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる所の戸を皆、締めていたが、復活されたイエスが戸をあけないで、その部屋に入って来て、彼らの中に立ち、「平安があるように」と言われた。これはユダヤ人のあいさつの言葉で、「今晚は」という意味である。²⁰イエスはこう言われて、ご自分の手と胸の辺りを、彼らにお見せになった。弟子たちは、それが主であることを知り、主にお会いできたことを喜んだ。²¹イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があるように。天のお父様がわたしをこの世にお遣わしになったように、わたしもあなたがたをこの世に遣わします。」²²こう言われると、イエスは彼らに息を吹き掛けて、言われた。「聖霊を受けなさい。²³あなたがたに罪を赦す権能を与えます。それは、天のお父様からのものです。」

²⁴十二使徒の一人で、「双子」というあだ名を付けられていたトマスは、イエスがその部屋の中へ入って来られた時、そこに居合わせ

なかった。²⁵ それで、ほかの弟子たちが、「私たちは主にお会いした」と言っても、それを信じなかった。「私は、自分の手で、主の釘跡と、槍跡に触って確かめられない限り、信じられないね」と言った。

²⁶ それから、ちょうど一週間後の日曜日、弟子たちはまた部屋の中に入っていた。この時は、トマスも一緒にいた。戸がしまっていたのに、復活されたイエスは戸をあけないで、部屋の中に入って来て、彼らの中に立ち、「平安があるように」と言われた。²⁷ イエスはそのままトマスの所に近寄り、こう言われた。「あなたの手で、わたしの手の釘跡と、胸の槍跡に触って、確かめてみなさい。これからは、信じられないなどと言わないで、信じることです。」²⁸ トマスはすぐに答えて言った。「主イエス様。創造主。」²⁹ イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見て信じましたね。でも、見ないで信じるのが信仰です。信じる人は幸いです。」

この書物が書かれた目的

³⁰ この書物に書かれていない奇蹟を、イエスはそのほかにも沢山、弟子たちの前で行なわれた。³¹ ところで、この書物の中にこれらの奇蹟が書かれたのは、あなたがたがイエスは創造主の御子のキリスト(救い主)であることを信じるためであり、そう信じて、救われるためである。

ガリラヤ湖畔での弟子たちへの顕現

21 ¹ その後、復活されたイエスは、ガリラヤ湖畔で、もう一度弟子たちにご自分を現された。² ある日、シモン・ペテロと、トマスと、カナのナタナエルと、ヨハネとヤコブと、ほかに二人の弟子が一緒にいた時、³ シモン・ペテロは、「漁に行つて来る」と言った。すると、ほかの弟子たちも、「一緒に行こう」と言って、小舟に乗り込んで、出て行った。しかし、その晩は何も捕れなかった。⁴ 夜が明け始めたころ、復活されたイエスは岸に立っておられた。しかし、弟子たちはそれがイエスであることが分らなかった。⁵ イエスは彼らに言わ

れた。「何か食べる物がありますか。」弟子たちは力なく、「ありません」と答えた。⁶ イエスは彼らに言われた。「それでは、舟の右側に投網を打ってみなさい。そうすれば捕れます」。彼らがイエスの言われた通り投網を打つと、魚が沢山捕れたので、それを引き上げることができないほどであった。⁷ ヨハネがペテロに、「主イエス様だ」と言うと、シモン・ペテロはすぐ裸の上に着物を着て、湖の中に飛び込んだ。一刻も早く主に近いきたかったからである。⁸ しかし、ほかの弟子たちは、小舟に乗ったまま、魚が一杯入っている網を引きながら帰って行った。岸から百メートル足らずの所にいたからである。⁹ 彼らが岸が上がってみると、そこに炭火が起してあって、その上に魚が載せてあり、またパンもあった。¹⁰ イエスは彼らに言われた。「今捕った魚を少し持って来なさい。」¹¹ シモン・ペテロは行って、網を岸へ引き上げると、百五十三匹の大きな魚が一杯であった。そんなに多かったのに、網は全然裂けなかった。¹² イエスは彼らに言われた。「さあ朝食にしましょう。」弟子たちには、もうそれが主であることが分っていたので、だれもあえて、それが主であるかどうかを尋ねなかった。¹³ イエスはそこへ来て、パンを取り、彼らにお与えになり、また魚もお与えになった。¹⁴ イエスが死人の中から復活されてから、弟子たちにご自分を現されたのは、これで三度目である。

わたしの羊を飼いなさい

¹⁵ 彼らが、食事を済ませると、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはこの人たち以上に、わたしを愛しますか。」ペテロはイエスに答えた。「主イエス様はよくご存じのほうです。」イエスは言われた。「あなたには、飼わなければならない羊があります。それを飼いなさい。」¹⁶ イエスはまた彼に言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロはイエスに答えた。「主イエス様。私があなたを愛していることは、イエス様がよくご存じのほうです。」イエスは彼に

言われた。「あなたには、面倒を見なければならぬ羊があります。その面倒を見なさい。」

¹⁷ イエスは三度ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロはイエスが三度も同じことを聞かれるので、心を痛めてイエスに答えた。「主イエス様。あなたは何もかもご存じのほうです。私があなたを愛していることは、よくご存じのほうです。」イエスはまた彼に言われた。「あなたには、飼わなければならない羊があります。それを飼いなさい。¹⁸ よく言っておきますが、確かに、あなたは若かった時には、自分で帯を締めて、自由に出歩くことができました。しかし年を取ってからは、ほかの人があなたに帯を締めたり、行きたくない所へでも連れて行くようになります。」¹⁹ これは、ペテロがどのような死に方で創造主の栄光を現すかを示して、言われたことであった。つまり、彼は殉教の死を遂げるというのである。イエスはこのように言われてから、「わたしに従って来なさい」とペテロに言われた。²⁰ ペテロが振り向いて見ると、そこにヨハネが付いて来ていた。²¹ ペテロはヨハネを見ると、イエスに尋ねた。「主イエス様。この人の最期はどうなるのですか。」²² イエスはペテロに言われた。「かりにわたしがもう一度帰って来るまで、ヨハネが生き長らえることをわたしが望んだとしても、それは彼の人生であって、あなたとは何の関係も無いことです。あなたはわたしに従って来なさい。」²³ そういうことから、ヨハネは死なないのだというわさが弟子たちの間に広まった。しかし、イエスはヨハネが死なないと言われたのではなく、「かりにわたしがそれを望んだとしても……」と言われたに過ぎなかったのである。

²⁴ これらのことを書いているこの私は、イエスの弟子ヨハネである。ここに記したイエスの福音が確かなものであることを、私はここにはっきりと申し上げたい。

²⁵ イエスがこの地上の生活中心に行なわれたことは、ここに記したこと以外にも沢山ある。それらを全部記すなら、たといこの世界も、その

書かれたものを収めきれないだろう。